

(様式4)

一般社団法人薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成25年5月1日)

徳島文理大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成25年度評価対象大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成24年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況・休学退学者数・学士課程修了状況	10
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	13
基礎資料 4	カリキュラムマップ	63
基礎資料 5	語学教育の要素	65
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	66
基礎資料 7	学生受入状況	72
基礎資料 8	教員・事務職員数	73
基礎資料 9	専任教員年齢構成	74
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	75
基礎資料11	卒業研究の配属状況	91
基礎資料12	講義室等の数と面積	92
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	94
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	95
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	96

(基礎資料1-1) 学年別授業科目

	1 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択) 哲学A	前期	150	1	85	コ			2
	(択) 倫理学A	前期	150	1	19	コ			2
	数学A	前期	75	2	148	コ			2
	物理学A	前期	150	1	147	コ			2
	化学A	前期	150	1	149	コ			2
	応用生物学A	前期	150	1	143	コ			2
	総合科目A(情報科学1)	前期	75	2	143	コ		タ	2
	総合科目B(情報科学2)	後期	75	2	140	コ		タ	2
	健康スポーツA	前期	75	2	143	コ		タ	1
	健康スポーツB	後期	74	2	140	コ		タ	1
	英語A①	前期	38	4	144	コ			1
	英語A②	後期	37	4	141	コ			1
	英語B①	後期	74	2	141	コ			1
	(択) ドイツ語A①	前期	150	1	27	コ			1
	(択) ドイツ語A②	後期	148	1	26	コ			1
	(択) 中国語①	前期	150	1	16	コ			1
	(択) 中国語②	後期	148	1	15	コ			1
	基礎ゼミナールA	後期	4-8	19	141	コ	S		2
	文理学	前期	150	1	143	コ		オ	2
	薬学専門教育	薬学概論 1	前期	150	1	144		S	オ
薬学概論 1									
薬学概論 1									
薬学概論 1									
物理化学 1		前期	75	2	148	コ			1
無機化学		前期	150	1	145	コ			1
有機化学 1		前期	150	1	148	コ			1
人体構造学		前期	150	1	146	コ			1
薬学概論 2		後期	148	1	142			オ	1
薬学概論 2									
物理化学 2		後期	148	1	142	コ			1
薬品分析学 1		後期	148	1	145	コ			1
有機化学 2		後期	148	1	144	コ			1
有機化学 3		後期	148	1	143	コ			1
薬用植物学		後期	148	1	144	コ			1
細胞生物学		後期	148	1	143	コ			1
生化学 1	後期	148	1	144	コ			1	
実習	早期体験学習	前期	4-8	19	143		S		1
	早期体験学習								
	早期体験学習								
	化学実習	後期	70	2	140			タ	1
	生物学実習	後期	70	2	140			タ	1
	(択) 学部内インターンシップ 1	前期・後期		19	1		S	オ	1
(択) ボランティア災害医療実習	前期・後期			0			タ	1	
演習									
単位数の合計							(必須科目)		37
							(選択科目)		10
							合計		47

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S オムパ ス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	(択) 哲学A	前期	110	1	7	コ		2
	(択) 哲学B	後期	109	1	1	コ		2
	(択) 倫理学A	前期	110	1	4	コ		2
	(択) 倫理学B	後期	109	1	1	コ		2
	(択) 文学A	前期	110	1	6	コ		2
	(択) 文学B	後期	109	1	2	コ		2
	(択) 法学A	前期	110	1	3	コ		2
	(択) 法学B	後期	109	1	2	コ		2
	(択) 心理学A	前期	110	1	1	コ		2
	(択) 心理学B	後期	109	1	1	コ		2
	(択) 社会学A	前期	110	1	11	コ		2
	(択) 社会学B	後期	109	1	2	コ		2
	(択) 経済学A	前期	110	1	5	コ		2
	(択) 経済学B	後期	109	1	2	コ		2
	(択) 数学B	後期	109	1	1	コ		2
	(択) 物理学B	後期	109	1	3	コ		2
	英語B②	前期	54	2	93	コ		1
	英語C①	前期	110	1	92	コ		1
	(択) ドイツ語A①	前期	110	1	4	コ		1
	(択) ドイツ語A②	後期	109	1	3	コ		1
(択) 中国語①	前期	110	1	3	コ		1	
(択) 中国語②	後期	109	1	3	コ		1	
薬学専門教育	物理化学 3	前期	110	1	98	コ		1
	薬品分析学 2	前期	110	1	95	コ		1
	薬品分析学 3	前期	110	1	96	コ		1
	有機化学 4	前期	110	1	104	コ		1
	医薬品製造学 1	前期	110	1	108	コ		1
	人体機能学 1	前期	110	1	103	コ		1
	生化学 2	前期	110	1	97	コ		1
	分子生物学 1	前期	110	1	101	コ		1
	基礎薬理学	前期	110	1	101	コ		1
	製剤学	前期	110	1	101	コ		1
	放射化学	後期	109	1	97	コ		1
	化学反応論	後期	109	1	101	コ		1
	生体分子解析学	後期	109	1	102	コ		1
	薬物構造学	後期	109	1	101	コ		1
	医薬品製造学 2	後期	109	1	102	コ		1
	人体機能学 2	後期	109	1	103	コ		1
	微生物学総論	後期	109	1	98	コ		1
	分子生物学 2	後期	109	1	99	コ		1
	薬理学 1	後期	109	1	100	コ		1
	実習	薬品物理化学実習	前期	5-6	18	92		タ
薬品分析学実習		前期	4	23	92		タ	1
有機薬化学実習		後期	2	46	92		タ	1
薬品製造学実習		後期	2	46	92		タ	1
薬品化学実習		後期	45-48	2	93		タ	1
生薬学実習		後期	2-3	47	93		タ	1
(択) 学部内インターンシップ 2		前期・後期		20	4	S	オ	1
(択) ボランティア災害医療実習		前期・後期			3		タ	1
(択) 企業インターンシップ		前期・後期			0		タ	0.5
演習	解析衛生系特別演習	前期	110	1	100	コ		1
	化学系特別演習	後期	109	1	99	コ		1
	薬学基礎演習 1	後期	109	1	91	コ	オ	1
	薬学基礎演習 1							
単位数の合計							(必須科目)	30
							(選択科目)	38.5
							合計	68.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S オムハ^スオ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・ 語学教育	(択) 歴史学A	前期	105	1	3	コ		2	
	(択) 教育学A	前期	105	1	3	コ		2	
	(択) 教育学B	後期	103	1	4	コ		2	
	(択) 基礎ゼミナールB	後期	103	1	92	コ	S	2	
	英語C②	前期	105	1	92	コ		1	
薬学専門教育	応用分析学	前期	105	1	96	コ		1	
	生物有機化学	前期	105	1	96	コ		1	
	天然物化学	前期	105	1	92	コ		1	
	応用細胞生物学 1	前期	105	1	97	コ		1	
	微生物学	前期	105	1	95	コ		1	
	栄養化学	前期	105	1	96	コ		1	
	公衆衛生学 1	前期	105	1	96	コ		1	
	薬理学 2	前期	105	1	101	コ		1	
	薬物制御学	前期	105	1	100	コ		1	
	生体分子構造学	後期	103	1	97	コ		1	
	天然医薬品学	後期	103	1	93	コ		1	
	免疫学	後期	103	1	100	コ		1	
	公衆衛生学 2	後期	103	1	97	コ		1	
	食品衛生学	後期	103	1	93	コ		1	
	放射薬化学	後期	103	1	93	コ		1	
	薬理学 3	後期	103	1	98	コ		1	
	薬物動態学 1	後期	103	1	98	コ		1	
	薬物治療学 1	後期	103	1	94	コ		1	
薬物治療学 2	後期	103	1	95	コ		1		
実習	放射化学実習	前期	2-4	32	92		タ	1	
	病理学実習	前期	30-31	3	92		タ	1	
	生化学実習	前期	4-5	23	92		タ	1	
	薬理学実習	前期	5-6	18	92		タ	1	
	微生物学実習	後期	3-4	24	91		タ	1	
	公衆衛生学実習	後期	5-6	16	91		タ	1	
	衛生化学実習	後期	2-3	45	91		タ	1	
	(択) 学部内インターンシップ 3	前期・後期		20	0		S	オ	1
	(択) ボランティア災害医療実習	前期・後期			0			タ	1
(択) 企業インターンシップ	前期・後期			0			タ	0.5	
演習	生物系特別演習	前期	105	1	97	コ		1	
	医療系特別演習	後期	103	1	92	コ		1	
	薬学基礎演習 2	後期	5-6	20	92		S	1	
	薬学基礎演習 2	後期	5-6	20	92		S	1	
単位数の 合計							(必須科目)	30	
							(選択科目)	10.5	
							合計	40.5	

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S オムハス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	医薬品化学	前期	134	1	133	コ			1
	応用細胞生物学 2	前期	67	2	134	コ			1
	バイオテクノロジー論 1	前期	134	1	133	コ			1
	毒性学	前期	134	1	133	コ			1
	環境衛生学	前期	134	1	133	コ			1
	病態生理学1	前期	134	1	122	コ			1
	薬物動態学 2	前期	134	1	133	コ			1
	薬物治療学 3	前期	134	1	133	コ			1
	薬物治療学 4	前期	134	1	133	コ			1
	薬物治療学 5	前期	134	1	133	コ			1
	日本薬局方	前期	134	1	119	コ			1
	薬事関係法規	前期	134	1	133	コ			1
	東洋医学概論	後期	133	1	132	コ			1
	病態生理学2	後期	133	1	133	コ			1
	薬物治療学 6	後期	133	1	132	コ			1
	医薬品創製学 1	後期	133	1	133	コ			1
	医薬品創製学 2	後期	133	1	133	コ			1
	生物統計学	後期	133	1	132	コ			1
社会薬学	後期	133	1	133	コ			1	
実習	薬剤学実習	前期	67	2	133			タ	1
	実務実習事前学習	前期・後期	133	1	132	コ	S	タ	4
	実務実習事前学習								
	実務実習事前学習	前期・後期	4-11	20	132		S	タ	3
	総合薬学研究 1								
	(択) ボランティア災害医療実習	前期・後期			16			タ	1
(択) 企業インターンシップ	前期・後期			0			タ	0.5	
演習	医薬品情報学演習 1	前期	134	1	133	コ	S		1
	医薬品情報学演習 2	後期	133	1	132	コ	S		1
	医薬品情報学演習 2								
	薬物動態学演習	後期	133	1	133	コ	S		1
	創薬学演習	後期	133	1	133	コ	S		1
単位数の合計							(必須科目)		31
							(選択科目)		1.5
							合計		32.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	バイオテクノロジー論 2	前期	120	1	116	コ			1
	医薬品開発学	前期	120	1	116	コ			1
	(択) 医薬品開発学特論	前期	120	1	107	コ			1
	(択) 医薬品リスクマネジメント	前期	120	1	110	コ			1
	(択) 医薬品リスクマネジメント								
	(択) 応用生物統計学	前期	120	1	108	コ			1
	(択) 実践的コミュニケーション	前期	120	1	66	コ			1
	(択) 薬物作用科学 1	前期	120	1	17	コ			1
	(択) 薬物作用科学 2	前期	120	1	19	コ			1
	(択) 創薬化学 1	前期	120	1	12	コ			1
	(択) 創薬化学 2	前期	120	1	12	コ			1
	(択) ゲノムと創薬	前期	120	1	34	コ			1
	(択) 精密構造解析学	前期	120	1	27	コ			1
	(択) 医療環境論	前期	120	1	30	コ	S		1
	(択) がん総合講義	後期	120	1	39	コ			1
	(択) 実践栄養学	後期	120	1	58	コ			1
	(択) 新興・再興感染症	後期	120	1	75	コ			1
	(択) 医薬品適正使用	後期	120	1	73	コ			1
	(択) 糖尿病総合講義	後期	120	1	58	コ			1
	(択) 漢方調剤	後期	120	1	49	コ			1
(択) 地域薬学論	後期	120	1	37	コ			1	
(択) 分子薬効論	後期	120	1	27	コ	S		1	
(択) 処方せん解析学	後期	120	1	27	コ	S		1	
実習	病院実習	前期・後期	120		114			タ	10
	病院実習								
	薬局実習	前期・後期	120		114			タ	10
	薬局実習								
	総合薬学研究 2	前期・後期	1-8	21	119	S		オ	4
	(択) ボランティア災害医療実習	前期・後期			13			タ	1
(択) 企業インターンシップ	前期・後期			0			タ	0.5	
演習									
単位数の合計						(必須科目)			26
						(選択科目)			21.5
						合計			47.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S オムハス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

	6 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 医薬品開発学特論	前期	155	1	0	コ			1
	(択) 医薬品リスクマネジメント	前期	155	1	0	コ			1
	(択) 医薬品リスクマネジメント								
	(択) 応用生物統計学	前期	155	1	0	コ			1
	(択) 実践的コミュニケーション	前期	155	1	2	コ			1
	(択) 薬物作用科学 1	前期	155	1	7	コ			1
	(択) 薬物作用科学 2	前期	155	1	4	コ			1
	(択) 創薬化学 1	前期	155	1	11	コ			1
	(択) 創薬化学 2	前期	155	1	5	コ			1
	(択) ゲノムと創薬	前期	155	1	4	コ			1
	(択) 精密構造解析学	前期	155	1	7	コ			1
	(択) 機能性食品	前期	155	1	154	コ			1
	(択) 高齢者医療	前期	155	1	154	コ			1
	(択) 専門薬剤師論	前期	155	1	154	コ			1
実習	総合薬学研究 3	前期	5-16	21	155		S	オ	8
	(択) ボランティア災害医療実習	前期・後期			2			タ	1
	(択) 企業インターンシップ	前期・後期			0			タ	0.5
演習	解析衛生系総合演習	後期	160	1	160	コ		オ	1
	化学系総合演習	後期	160	1	160	コ		オ	1
	生物系総合演習	後期	160	1	160	コ		オ	1
	医療系総合演習	後期	160	1	160	コ		オ	1
	臨床系総合演習	後期	160	1	160	コ		オ	1
	社会薬学系総合演習	後期	160	1	160	コ		オ	1
単位数の合計							(必須科目)		14
							(選択科目)		14.5
							合計		28.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S オムパ'ス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	12	15
教養教育科目	30	58
語学教育科目	14	14
医療安全教育科目	10	13
生涯学習の意欲醸成科目	22	37.5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	13	48

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	37	10	47
2 年 次	30	38.5	68.5
3 年 次	30	10.5	40.5
4 年 次	31	1.5	32.5
5 年 次	26	21.5	47.5
6 年 次	14	14.5	28.5
合計	168	96.5	264.5

(基礎資料 2-1) 修学状況

入学年度 における	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計
	入学定員数	180	180	200	200	200	
編入定員数							B
入学者数	142	97	90	127	140	170	766
各学年の在籍学生数	150	110	105	134	120	182	801 C
編入学生数 (内)	0	3	3	16	9	14	45 D
留年者数 (内)	7	21	32	28	19	61	168
基準日 における	平成18年度		1	1	3	25	30
	平成19年度		2	2	1	36	44
	平成20年度	1		4	12	13	30
	平成21年度		3	10	14		27
	平成22年度		5	15			20
	平成23年度	1	11				12
	平成24年度	5					5
平成25年度							
C / (A + B)		0.67					
D / B							

[注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。

2 「編入学生数 (内)」および「留年者数 (内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

3 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料 2-2) 休学者数および退学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数
総在籍学生数	585		698		818		884		785		801	
1年次	6	18	1	13	2	11	1	7	1	7	0	0
2年次	2	3	6	9	2	8	0	3	2	9	1	0
3年次	0	1	2	3	1	3	1	9	2	5	2	0
4年次			0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
5年次							0	0	0	0	2	0
6年次							3	0	1	0	6	0
合計	8	22	9	25	6	22	6	20	6	21	11	0

[注] 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

卒業者総数	平成23年度 (平成24年3月卒業)		平成24年度		平成25年度		平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数	卒業率 (%)	
	169名	7名	14名	111名	7名	5名						
平成18年度入学者	169名	7名	14名	111名	7名	5名	名	名	名	平成18年度	235名	71.9%
平成19年度入学者	名	名	111名	名	11名	6名	名	名	名	平成19年度	188名	59.0%
平成20年度入学者	名	名	名	名	82名	名	名	名	名	平成20年度	170名	48.2%
平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名	名	名	名	平成21年度	140名	
平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	名	名	名	平成22年度	127名	
平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	名	名	名	平成23年度	90名	

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)						
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。						
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。						
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)						
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。						
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	薬学概論2					
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)						
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)		薬学基礎演習1				
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)						
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。						
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。						
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)						
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。						
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)						
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)		薬学基礎演習1				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)		薬学基礎演習 1				
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)		薬学基礎演習 1				
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。			薬学基礎演習 2			
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。			薬学基礎演習 2			
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)						
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)						
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。						
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)			薬学基礎演習 2			
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)						
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。						
2) チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)			薬学基礎演習 2			
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求めめる。(態度)						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)			薬学基礎演習 2			
B インTRODクシヨ						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学概論 1					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
【分子間相互作用】												
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 1											
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。												
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。												
4) 分散力について例を挙げて説明できる。												
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。												
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。												
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。												
【原子・分子】												
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	生体分子解析学											
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。												
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。							薬物構造学					
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。							物理化学 1					
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)												
6) 偏光および旋光性について説明できる。												
7) 散乱および干渉について説明できる。												
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。							薬化学実習					
【放射線と放射能】												
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	放射化学											
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。												
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。												
4) 核反応および放射平衡について説明できる。												
5) 放射線の測定原理について説明できる。												
(2) 物質の状態 I												
【総論】												
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 1											
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。												
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。												
【エネルギー】												
1) 系、外界、境界について説明できる。	物理化学 2											
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。												
3) 仕事および熱の概念を説明できる。												
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。												
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。												
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)												
7) エンタルピーについて説明できる。												
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)												
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。		物理化学3				
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)						
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van t Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		物理化学3				
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分子系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。						
7) 吸着平衡について説明できる。		化学反応論				
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		薬品物理化学実習				
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	物理化学2					
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		薬品分析学2				
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化							
【反応速度】							
1) 反応次数と速度定数について説明できる。			化学反応論				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)							
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。							
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)			薬品物理化学実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。							
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。							
7) 衝突理論について概説できる。			化学反応論				
8) 遷移状態理論について概説できる。							
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。							
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。							
【物質の移動】							
1) 拡散および溶解速度について説明できる。							
2) 沈降現象について説明できる。			化学反応論				
3) 流動現象および粘度について説明できる。							
C2 化学物質の分析							
(1) 化学平衡							
【酸と塩基】							
1) 酸・塩基平衡を説明できる。		物理化学2					
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)			薬品物理化学実習				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)							
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。							
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。		物理化学2					
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。							
【各種の化学平衡】							
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		薬品分析学1					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。							
3) 酸化還元電位について説明できる。							
4) 酸化還元平衡について説明できる。							
5) 分配平衡について説明できる。							
6) イオン交換について説明できる。			薬品分析学2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量							
【定性試験】							
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		化学実習					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			薬品化学実習				
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。							
【定量の基礎】							
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)			薬品分析学実習				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。			薬品分析学2				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		薬品分析学1					
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。							
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			薬品分析学2				
【容量分析】							
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		薬品分析学1					
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。			薬品分析学2				
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		薬品分析学1					
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。			薬品分析学2				
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。							
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)			薬品分析学実習				
【金属元素の分析】							
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。			薬品分析学3				
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。							
【クロマトグラフィー】							
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。			薬品分析学3				
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。							
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)			薬品分析学実習				
(3) 分析技術の臨床応用							
【分析の準備】							
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)						応用分析学	
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			応用分析学			
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			生化学実習			
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			応用分析学			
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。		放射化学				
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。						
9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。			応用分析学			
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。						
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			応用分析学			
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		生体分子解析学				
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		薬物構造学				
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。		薬物構造学				
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。						
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。		生体分子解析学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【相互作用の解析法】							
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			応用分析学				
(2) 生体分子の立体構造と相互作用							
【立体構造】							
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。			生体分子構造学				
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。							
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。							
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。							
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。				生物有機化学			
【相互作用】							
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			生体分子構造学				
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。							
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。				生物有機化学			
C4 化学物質の性質と反応							
(1) 化学物質の基本的性質							
【基本事項】							
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。		有機化学4					
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。		医薬品製造学2					
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。		有機化学4					
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	有機化学2						
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。		医薬品製造学2					
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	有機化学1						
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。		有機化学4					
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学1						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。		医薬品製造学2					
【有機化合物の立体構造】							
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。		有機化学4					
2) キラリティーと光学活性を概説できる。							
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。							
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。							
5) 絶対配置の表示法を説明できる。							
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。							
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	有機化学2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基							
【概説】							
1)	代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		医薬品製造学 2				
2)	複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3)	生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4)	代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		薬品化学実習				
5)	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		薬品製造学実習				
6)	日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		医薬品製造学 2				
【有機ハロゲン化合物】							
1)	有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学4				
2)	求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3)	ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】							
1)	アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品製造学 1				
2)	フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3)	フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】							
1)	エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品製造学 1				
2)	オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】							
1)	アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		医薬品製造学 1				
2)	カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3)	カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】							
1)	アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品製造学 2				
2)	代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】							
1)	アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。		医薬品製造学 1				
2)	アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3)	含窒素化合物の塩基性を説明できる。			医薬品製造学 2			
(4) 化学物質の構造決定							
【総論】							
1)	化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		薬物構造学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		薬物構造学				
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシングナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピニング結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		薬物構造学				
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		生体分子解析学				
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		生体分子解析学				
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		薬物構造学				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明することができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。		薬物構造学				
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)			薬品物理化学実習			
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。		薬物構造学				
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		薬物構造学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
C5 ターゲット分子の合成							
(1) 官能基の導入・変換							
1)	アルケンの代表的な合成法について説明できる。		医薬品製造学 1				
2)	アルキンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学 3					
3)	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4)	アルコールの代表的な合成法について説明できる。		医薬品製造学 1				
5)	フェニールの代表的な合成法について説明できる。						
6)	エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7)	アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8)	カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9)	カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。		医薬品製造学 2				
10)	アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11)	代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
12)	代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		薬品製造学実習				
(2) 複雑な化合物の合成							
【炭素骨格の構築法】							
1)	Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学 3				
2)	転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3)	代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。		医薬品製造学 2				
4)	代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。						
【位置および立体選択性】							
1)	代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		医薬品製造学 2				
2)	代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】							
1)	官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。		医薬品製造学 2				
【光学活性化合物】							
1)	光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。	有機化学 3					
【総合演習】							
1)	課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)		薬品製造学実習・医薬品製造学 2				
2)	課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)		薬品製造学実習				
3)	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する							
(1) 生体分子のコアとパーツ							
【生体分子の化学構造】							
1)	タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。			生体分子構造学			
2)	糖類および多糖類の基本構造を概説できる。			生物有機化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			エーテル結合			

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生体分子構造学			
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。			生物有機化学			
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			生物有機化学			
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			生体分子構造学			
3) 複素環を含む代表的な補酵素(フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など)の機能を化学反応性と関連させて説明できる。			生物有機化学			
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			生体分子構造学			
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。			生物有機化学			
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			生体分子構造学			
2) 代表的な酵素(キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど)の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコアポネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造(ファーマコフォア)を指摘し、分類できる。				医薬品化学		
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。				医薬品化学		
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品化学		
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
3) 分子模型、コンピュータソフトウェアなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品化学		
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
【生体内分子と反応する医薬品】									
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。									
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。					医薬品化学				
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。									
C7 自然が生み出す薬物									
(1) 薬になる動植物									
【生薬とは何か】									
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		薬用植物学							
2) 生薬の歴史について概説できる。									
3) 生薬の生産と流通について概説できる。									
【薬用植物】									
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)			生薬学実習						
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		薬用植物学							
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。									
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)			生薬学実習						
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		薬用植物学							
【植物以外の医薬資源】									
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		薬用植物学							
【生薬成分の構造と生合成】									
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。									
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。									
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。									
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						天然物化学			
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。									
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。									
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。									
【農薬、香粧品としての利用】									
1) 天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。					天然物化学				
【生薬の同定と品質評価】									
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法に基づいて説明できる。					天然物化学				
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)									
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)			生薬学実習						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)									
5) 生薬の同定と品質評価法に基づいて概説できる。						天然物化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物							
【シーズの探索】				天然医薬品学			
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。							
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。							
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。							
【天然物質の取扱い】							
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)			生薬学実習				
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。				天然医薬品学			
【微生物が生み出す医薬品】							
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。				天然医薬品学			
【発酵による医薬品の生産】							
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。							
【発酵による有用物質の生産】							
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。				天然医薬品学			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬							
【漢方医学の基礎】							
1) 漢方医学の特徴について概説できる。							
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。							
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。							
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。							
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。							
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。							
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。							
【漢方処方の応用】							
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。							
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。							
【生物系薬学を学ぶ】							
C8 生命体の成り立ち							
(1) ヒトの成り立ち							
【概論】							
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。			人体機能学1				
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。							
【神経系】							
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。							
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。			人体機能学1				
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		人体機能学1				
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。						
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体機能学1				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	細胞生物学					
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	生物学実習					
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。						
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	細胞生物学					
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	細胞生物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。						
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	細胞生物学					
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。		人体機能学2				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		人体機能学2				
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。						
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		人体機能学2				
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		人体機能学2				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		人体機能学2				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。		人体機能学2				
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。						
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。		微生物学総論				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。						
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		微生物学総論				
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学総論				
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。						
2) ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学総論				
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。						
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学総論				
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学総論				
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)			微生物学実習			
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。			微生物学実習			
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。		生化学 2				
2) 脂防酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂防酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生化学 1					
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生化学実習			
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 1					
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。		生化学 2				
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生化学実習			
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		生化学 2				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。		分子生物学 1				
2) DNAの構造について説明できる。						
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。		分子生物学 1				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
4) 染色体の構造を説明できる。						
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。						
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。		分子生物学 1				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		分子生物学 1				
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。						
3) DNAの修復の過程について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】							
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。			分子生物学2				
(3) 生命活動を担うタンパク質							
【タンパク質の構造と機能】							
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。		生化学1					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。							
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。							
【酵素】							
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。							
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。							
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。		生化学1					
4) 酵素反応速度論について説明できる。							
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。							
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)				生化学実習			
【酵素以外の機能タンパク質】							
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。		細胞生物学					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。		生化学1					
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。			生化学2				
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。							
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。		細胞生物学					
【タンパク質の取扱い】							
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)				生化学実習			
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)							
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。							
(4) 生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。			生化学2				
【ATPの産生】							
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。							
2) 解糖系について説明できる。							
3) クエン酸回路について説明できる。							
4) 電子伝達系 (酸化リン酸化) について説明できる。							
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。							
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。			生化学2				
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。							
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。							
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。							
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学2				
2) 糖新生について説明できる。						
3) 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。			応用細胞生物学1			
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。			応用細胞生物学1			
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド（アングイオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。			応用細胞生物学1			
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			応用細胞生物学1			
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。					応用細胞生物学2	
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。					応用細胞生物学1	
4) 代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する							
【遺伝子操作の基本】			分子生物学2				
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。				生化学実習			
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)							
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)							
4) 組換えDNA実験指針を理解する。(態度)							
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)							
【遺伝子のクローニング技術】							
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。			分子生物学2				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。							
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。							
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)							
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。							
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。							
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)							
【遺伝子機能の解析技術】							
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			分子生物学2				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。							
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。							
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。							
C10 生体防御							
(1) 身体をまもる							
【生体防御反応】							
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。				免疫学			
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。							
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。							
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。							
5) クローン選択説を説明できる。							
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。							
【免疫を担当する組織・細胞】							
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。				免疫学			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。							
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。							
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。			免疫学			
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】			免疫学			
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。						
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】			免疫学			
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。						
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】			免疫学			
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。						
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】			免疫学			
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）			微生物学実習			
(3) 感染症にかかると						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△バロウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
2) 主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			微生物学			
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、結核菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリillum属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムコール) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。				微生物		
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			栄養化学			
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			食品衛生学			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)				衛生化学実習		
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。				栄養化学		
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。			食品衛生学			
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学 1			
2) 人口動態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。			公衆衛生学 1			
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学 1			
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学 1			
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学 1			
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。						
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。			公衆衛生学 1			
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。			公衆衛生学 2			
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			公衆衛生学 1			
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。				毒性学		
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。				毒性学		
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			微生物学実習			
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。				毒性学		
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。					毒性学	
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
2) 化学物質の中毒量、中毒症状、中毒器官、作用器官、解毒法を検索することができる。(技能)					毒性学	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。			放射薬化学			
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。				環境衛生学		
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						環境衛生学
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			放射薬化学			
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			公衆衛生学 2			
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			公衆衛生学実習			
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			公衆衛生学 2			
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			公衆衛生学実習			
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)			公衆衛生学 2			
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			公衆衛生学 2			
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			公衆衛生学実習			
4) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。			公衆衛生学 2			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			公衆衛生学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			公衆衛生学2			
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。						
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			公衆衛生学2			
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。				環境衛生学		
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。						
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。						
2) 薬物の代表的な投与方法 (剤形、投与経路) を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化 (崩壊、分散、溶解など) を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。						
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1				
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理学実習			
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1				
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない					薬理学実習	
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)			薬理学実習			
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学 2			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			応用細胞生物学 1			
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			応用細胞生物学 1			
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学 3			
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な腎臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学 3			
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			応用細胞生物学 1			
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学 3			
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			応用細胞生物学 1			
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学 3			
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学 3			
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。						
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。			薬物動態学 1			
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分布】						
到達目標：						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			薬物動態学 1			
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態 (血漿タンパク結合など) を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因 (血流量、タンパク結合性、分布容積など) について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)						
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的变化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			薬物動態学 1			
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因 (誘導、阻害、加齢、SNPsなど) について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固相クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物動態学 1			
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学 1			
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。						
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)						
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。				薬物動態学 2		
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				実務実習事前学習		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				薬物動態学演習		
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疽、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、腹痛、下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい				創薬学演習		
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることをできる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることをできる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】				薬物治療学3		
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。				創薬学演習		
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】				薬物治療学3		
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】				薬物治療学3		
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】				薬物治療学3		
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝臓癌、大腸癌、胃癌、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】				創薬学演習		
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)						
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】				薬物治療学4		
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】				薬物治療学4		
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、不妊、子宮癌、子宮内膜症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学4		
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学4		
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学4		
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学4		
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療学4		
(4) 疾患と薬物治療(精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】				薬物治療学5		
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾燥性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。						
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				薬物治療学5		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）				創薬学演習		
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			薬物治療学1			
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。						
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			薬物治療学 1			
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			薬物治療学 1			
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			薬物治療学 1			
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			薬物治療学 1			
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。						
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。						
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			薬物治療学 2			
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報							
(1) 医薬品情報							
【情報】							
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。							
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。							
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						医薬品情報学演習1	
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。							
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。							
【情報源】							
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。							
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。							
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。							医薬品情報学演習1
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。							
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。							
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)							
【収集・評価・加工・提供・管理】							
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)							実務実習事前学習
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。							医薬品情報学演習1
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)							
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)							実務実習事前学習
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。							医薬品情報学演習1
【データベース】							
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。							医薬品情報学演習1
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)							実務実習事前学習
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)							
【EBM (Evidence-Based Medicine)】							
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。							
2) EBM実践のプロセスを概説できる。							
3) 臨床研究方法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。							医薬品情報学演習2
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)							
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。							
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。							
【総合演習】							
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。							
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)							医薬品情報学演習2

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報							
【情報と情報源】							
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。					医薬品情報学演習2		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。							
【収集・評価・管理】							
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。					医薬品情報学演習2		
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)							
3) 患者、介護者との適切なインタビュアーから患者基本情報を収集できる。(技能)							
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)					実務実習事前学習		
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)							
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)							
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)							
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して							
【遺伝的素因】							
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。					薬物治療学6		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。							
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。							
【年齢的要因】							
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。					薬物治療学6		
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【生理的要因】							
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。					薬物治療学6		
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【合併症】							
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。					薬物治療学6		
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【投与計画】							
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)					薬物治療学6		
2) ポピュレーションファーマコネティクスの概念と応用について概説できる。							
3) 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)							
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。						
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。		製剤学				
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。						
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。		製剤学				
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。						
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。		製剤学				
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)						薬剤学実習
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。						
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。						日本薬局方
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						薬剤学実習
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						日本薬局方

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【製剤試験法】							
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。				日本薬局方			
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)				薬剤学実習			
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)							
【DDSの必要性】							
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			薬物制御学				
2) DDSの概念と有用性について説明できる。							
【放出制御型製剤】							
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。			薬物制御学				
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。							
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。							
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。							
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる。							
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。							
【ターゲティング】							
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			薬物制御学				
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。							
【プロドラッグ】							
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。			薬物制御学				
【その他のDDS】							
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。			薬物制御学				
C17 医薬品の開発と生産							
(1) 医薬品開発と生産のながれ							
【医薬品開発のコンセプト】							
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。					医薬品創製学 1		
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。							
【医薬品市場と開発すべき医薬品】							
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。					医薬品創製学 1		
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。							
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。							
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。							
【非臨床試験】							
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。					医薬品創製学 1		
【医薬品の承認】							
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。					医薬品創製学 1		
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。							
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。							
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医薬品創製学 1		
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。				医薬品創製学 1		
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				医薬品創製学 1		
【薬書】						
1) 代表的な薬書の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				医薬品創製学 1		
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				医薬品創製学 1		
【標的分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。						
2) 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						医薬品創製学 2
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。						医薬品創製学 2
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。						
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。						医薬品創製学 2
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。						
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。					医薬品創製学 1	
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						バイオテクノロジー論 ₂
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						バイオテクノロジー論 ₂

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。						
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。					バイオテクノロジー論2	
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。						バイオテクノロジー論2
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。						
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。				実務実習事前学習		
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)						医薬品開発学
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。						
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						医薬品開発学
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。						
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)					生物統計学	
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。					応用生物統計学	
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】				社会薬学		
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)						
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。					薬事関係法規	
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。					薬事関係法規	
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			放射薬化学			
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。					薬事関係法規	
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				薬事関係法規		
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				社会薬学		
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				薬事関係法規		
2) 在宅医療および在宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。				社会薬学		
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬事関係法規		
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				社会薬学		
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

	実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	実務実習事前学習		
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものについて討議する。(態度)			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	実務実習事前学習		
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	実務実習事前学習		
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	実務実習事前学習		
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	実務実習事前学習		
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			

《服薬指導の基礎》			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習
《調剤室業務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務実習事前学習
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
17.	処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		実務実習事前学習
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		実務実習事前学習
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習事前学習
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		

《製剤化の基礎》					
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			実務実習事前学習	
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)				
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				
《注射剤と輸液》					
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。			実務実習事前学習	
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)				
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。				
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)				
《消毒薬》					
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。			実務実習事前学習	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。				
(5) リスクマネージメント					
《安全管理に注目する》					
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。			実務実習事前学習	
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。				
3.	院内感染の回避方法について説明できる。				
《副作用に注目する》					
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。			実務実習事前学習	
《リスクマネージメント入門》					
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。			実務実習事前学習	
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)				
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)				
(6) 服薬指導と患者情報					
《服薬指導に必要な技能と態度》					
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。				実務実習事前学習
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。				
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)				
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)				
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)				
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。				

《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		実務実習事前学習
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		
10.	医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。		
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		実務実習事前学習
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		
《(7) 事前学習のまとめ》			
			実務実習事前学習

[注] 1 任意 (大学独自) の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。

2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1. イントロダクションとヒューマンズムについて学ぶ	薬学概論1	薬学概論2		薬学基礎演習1	薬学基礎演習2							
2. 薬学準備教育	早期体験学習	化学実習 生物学実習										
3. 物理系薬学を学ぶ	物理学A 物理化学1 薬品分析学1	物理化学2	物理化学3	化学反応論 生体分子解析学	薬品物理化学実習 応用分析学 生体分子構造学	薬品分析学実習 放射化学実習						
4. 化学系薬学を学ぶ	化学A 無機化学 有機化学1 有機化学2 有機化学3 有機化学4		有機化学4	放射化学								
5. 生物系薬学を学ぶ	薬品製造学1 薬用植物学	薬品製造学2 医薬品製造学実習 生薬学実習	有機薬化学実習 薬品化学実習 医薬品製造学2 医薬品製造学実習	薬物構造学 有機薬化学実習 医薬品製造学2 医薬品製造学実習 生薬学実習	生物有機化学 天然薬品学	天然薬品学	医薬品化学 東洋医学概論	医薬品化学				
6. 健康と環境	応用生物学A 人体構造学	細胞生物学 生化学1 分子生物学1	人体機能学1 生化学2 分子生物学1	人体機能学2 分子生物学2 微生物学総論	応用細胞生物学1 病理学実習 生化学実習 微生物学 免疫学 微生物学実習	応用細胞生物学1 病理学実習 生化学実習 微生物学	応用細胞生物学2 ハイテクノロジー論		応用細胞生物学2			
7. 薬と疾病			基礎薬理学	薬理学1	薬理学2 薬理学3 薬理学実習	薬理学2 薬理学実習	薬理学3	薬理学1 薬理学2 薬理学3 薬理学実習	薬理学1 薬理学2 薬理学3 薬理学実習			
8. 医薬品をつくる		製剤学						病態生理学1 薬物治療学3 薬物治療学4 薬物治療学5 薬物治療学6 医薬品情報学演習2 薬物動態学1 薬物動態学2	病態生理学1 薬物治療学3 薬物治療学4 薬物治療学5 薬物治療学6 医薬品情報学演習2 薬物動態学1 薬物動態学2	医薬品創製学2 バイオテクノロジー論2 医薬品開発学		
9. 薬学と社会								薬事関係法規 実務実習事前学習	薬事関係法規 実務実習事前学習			
10. 実務実習教育								生物系特別実習 医療系特別実習	生物系特別実習 医療系特別実習	病院実習 薬局実習		
11. 卒業実習教育								総合薬学研究1	総合薬学研究1	総合薬学研究2 総合薬学研究2	総合薬学研究2 総合薬学研究3	総合薬学研究3 総合薬学研究3

薬学部教育プログラム

全人教育により豊かな教養と人間性を有し、課題発見能力・問題解決能力を身に付けた地域や社会に貢献できる薬剤師及び地域から世界に飛躍を目指す薬剤師資格を有した多様な人材育成を目指す

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	到達目標	
知識・理解	教養を学ぶ 一般総合科目 基礎学力及び専門導入基礎学力を培う 薬学専門導入教育 物理系薬学を学ぶ 化学系薬学を学ぶ 無機化学 有機化学1 有機化学2 有機化学3 薬用植物学 生物系薬学を学ぶ	教養を高める 一般総合科目 基礎学力及び専門導入基礎学力を培う 薬学専門導入教育 健康と環境 医薬品をつくる	教養を高める 一般総合科目 専門分野の学力を培う 薬学専門教育 薬と疾病	共通試験 (CBT) 専門分野の総合的学力を培う 薬学アドバンスト教育 1. 医薬品開発・青薬コース 2. 創薬・生命薬学コース 3. 実践医療コース 4. 総合薬学コース	共通試験 (CBT) 専門分野の総合的学力を培う 薬学アドバンスト教育 1. 医薬品開発・青薬コース 2. 創薬・生命薬学コース 3. 実践医療コース 4. 総合薬学コース	共通試験 (CBT) 専門分野の総合的学力を培う 薬学アドバンスト教育 1. 医薬品開発・青薬コース 2. 創薬・生命薬学コース 3. 実践医療コース 4. 総合薬学コース	1. 薬の専門家として必要な医薬品に関する基本的な知識を習得している。 2. 医薬品の構造と作用の原理について理解している。 3. 人の健康と病気に関する幅広い知識を修得している。 4. 海外の最新の医療情報を理解できる英語力を身につけている。	
	化学実習 生物化学実習 薬学準備教育 表現力(読、聴、書、話)を学ぶ 英語A① 英語A② 英語B① 英語B② 早期体験学習 基礎ゼミナールA 薬学概論1 薬学を学ぶ意欲の醸成と学習態度の習得	薬品分析学実習 有機薬化学実習 薬品物理化学実習 放射化学実習 基礎的技術・研究技術を習得 生薬学実習 病理学実習 衛生学実習 薬理学実習 表現力(読、聴、書、話)を育む 薬学基礎演習1 実習レポート作成 基礎ゼミナールB	有機薬化学実習 生化学実習 微生物学実習 薬品製造学実習 放射化学実習 基礎的技術・研究技術を習得 生薬学実習 病理学実習 衛生学実習 薬理学実習 表現力(読、聴、書、話)を育む 薬学基礎演習1 実習レポート作成 基礎ゼミナールB	実務実習事前学習 生化学実習 微生物学実習 薬品製造学実習 放射化学実習 基礎的技術・研究技術を習得 生薬学実習 病理学実習 衛生学実習 薬理学実習 表現力(読、聴、書、話)を育む 薬学基礎演習1 実習レポート作成 基礎ゼミナールB	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	1. 高度で多様化する医療に対応できる基本的な技能を身につけている。 2. 薬学に関する専門的な情報を解析して評価することができる。 3. 医療に関わる知識・情報を的確にまとめ、わかりやすく伝えることができる。
思考・判断	薬学概論1 薬学を学ぶ意欲の醸成と学習態度の習得	課題発見、問題解決のための薬学専門知識・技術の修得 薬学専門教育科目 各種実習	課題発見、問題解決のための薬学専門知識・技術の修得 薬学専門教育科目 各種実習	課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	1. 自ら課題を発見し、それを解決するための科学的なものの考え方を身につけている。 2. 医療人の一員として適切で責任ある行動がとれる。	
関心・意欲・態度	文理化学実習 生物学実習 イントロダクション 薬学概論1 薬学を学ぶ意欲の醸成と学習態度の習得 早期体験学習、学習ポートフォリオ	医療の担い手としての心構えの醸成 薬学基礎演習1 薬学基礎演習2 目標設定と他者との協調 チューター研究室での交流 ヒューマニズムについて学ぶ	医療の担い手としての心構えの醸成 薬学基礎演習1 薬学基礎演習2 目標設定と他者との協調 チューター研究室での交流 ヒューマニズムについて学ぶ	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	実務実習事前学習 共通試験 (OSCE) 医療薬学の専門的技術の習得 薬剤学実習 病院・薬局実習 課題発見能力、問題解決能力の醸成 実務実習報告書・卒業論文作成 研究セミナー 学会発表 病院・薬局実習 総合薬学研究	1. 豊かな人間性、医療人としての倫理観と使命感を身につけ、患者本位のチーム医療を実践することができる。 2. 地域における医療の担い手としての薬剤師の役割を深く自覚している。 3. 高度で多様化する医療に対応できるよう、生涯にわたって学習する意欲を持ち続ける。

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
英語 A 1	1	読み	書き	聞く	話す
英語 A 2	1	読み	書き	聞く	話す
英語 B 1	1	読み	書き		
英語 B 2	2	読み	書き		
英語 C 1	2	読み	書き	聞く	話す
英語 C 2	3	読み	書き	聞く	話す
ドイツ語 A 1, 2	1, 2	読み	書き	聞く	
中国語 1, 2	1, 2	読み	書き	聞く	

[注] 要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

読み	読み
書き	書き
聞く	聞く
話す	話す

(基礎資料6-1) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

前期

		月	火	水	木	金	土
1		4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日
午前	1		入学式				
	2						
午後	3						
	4						S103 演習
	5						S101 講義

		月	火	水	木	金	土
2		4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日
午前	1						
	2						
午後	3						
	4					S105 講義	
	5					S102 講義	

		月	火	水	木	金	土
3		4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日
午前	1						
	2						
午後	3						
	4					S106 演習	
	5					S103 演習	

		月	火	水	木	金	土
4		4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日
午前	1						
	2						
午後	3						
	4					S106 演習	
	5					S104 講義	

		月	火	水	木	金	土
5		4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日
午前	1						
	2						
午後	3						
	4						

		月	火	水	木	金	土
6		5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日
午前	1						
	2						
午後	3						
	4					S107 講義	
	5					S202 講義・演習	

		月	火	水	木	金	土
7		5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日
午前	1						
	2						
午後	3						
	4					S203 講義・演習	
	5					S203 講義・演習	

		月	火	水	木	金	土
8		5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	5月25日
午前	1						
	2						
午後	3					S206 講義・演習	
	4					S204 講義・演習	
	5						

		月	火	水	木	金	土
9		5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日
午前	1						
	2						
午後	3	S201 講義	S205 講義		S302 実習		
	4			S205 講義		S208 講義・演習	
	5					S207 講義・演習	

		月	火	水	木	金	土
10		6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日
午前	1						
	2						
午後	3	S206 講義・演習	S207 講義・演習		S208 講義・演習		
	4			S204 講義・演習		S209 講義	
	5					S211 演習	

		月	火	水	木	金	土
11		6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日
午前	1						
	2						
午後	3	S409 講義	S211 演習		S302 実習		
	4			S211 演習		S301 講義	
	5					S302 実習	

		月	火	水	木	金	土
12		6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日
午前	1						
	2						
午後	3	S506 演習	S506 演習		S304 演習		
	4			S606 演習		S304 演習	
	5					S305 講義	

		月	火	水	木	金	土
13		6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日
午前	1						
	2						
午後	3	S606 演習	S304 演習		S306 実習・演習		
	4			S305 講義		S406 実習	
	5					S306 実習・演習	

		月	火	水	木	金	土
14		7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日
午前	1						
	2						
午後	3	S606 演習	S306 実習・演習		S306 実習・演習		
	4			S306 実習・演習		S404 講義	
	5					S413 実習	

		月	火	水	木	金	土
15		7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日
午前	1						
	2					S306 実習・演習	
午後	3	S601 講義	S401 講義		S606 演習		
	4		S501 講義	S403 講義	S502 講義	S412 実習	
	5						

後期

		月	火	水	木	金	土
1		9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日
午前	1						
	2						
午後	3				S605 講義・演習	S504 講義	
	4				S605 講義・演習	S504 講義	

		月	火	水	木	金	土
2		9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日
午前	1		S505 演習				
	2		S505 演習				
午後	3		S412 実習		S406 実習	S503 講義	
	4		S413 実習		S405 講義	S605 講義・演習	
	5				S303 講義		

		月	火	水	木	金	土
3		9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日
午前	1		S413 実習				
	2						
午後	3	S408 講義	S606 演習		S602 講義	S606 演習	
	4	S406 実習	S407 講義		S602 講義	S603 演習	
	5	S402 講義					

		月	火	水	木	金	土
4		10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	10月12日
午前	1						
	2						
午後	3	S507 演習	S412 実習		S604 講義	S414 講義	
	4	S507 演習	S603 演習		S506 演習	210 実習	
	5	S507 演習			S506 演習		

		月	火	水	木	金	土
5		10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日
午前	1						
	2						
午後	3		210 実習		210 実習		
	4		210 実習		210 実習		

		月	火	水	木	金	土
6		10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日
午前	1						
	2						
午後	3	210 実習	210 実習		210 実習		
	4	210 実習	210 実習		306 実習・演習	S505 演習	

		月	火	水	木	金	土
7		10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	11月1日	11月2日
午前	1						
	2						
午後	3	306 実習	411 実習		410 実習	411 実習	
	4	410 実習	411 実習		410 実習	411 実習	

		月	火	水	木	金	土
8		11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日	11月9日
午前	1						
	2						
午後	3		411 実習		701 実習	701 実習	
	4		411 実習		701 実習	701 実習	

		月	火	水	木	金	土
9		11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日
午前	1						
	2						
午後	3	701 実習	701 実習		701 実習	701 実習	
	4	701 実習	701 実習		701 実習	701 実習	

(基礎資料6-2) 実務実習事前学習のLSと授業担当者表

LS	学習方法	実務実習事前学習 コアカリ内容	担当教員(責任者)
101	講義	薬剤師業務の変遷	山川 他
102	講義	薬剤師の使命	山川 他
103	演習	医薬分業ファーマシューティカルケアの実践(1)	中田 他
103	演習	医薬分業ファーマシューティカルケアの実践(2)	山川 他
104	講義	医療チームの構成や各構成員の役割	山川 他
105	講義	医薬品の適正使用・テラーメイド医療	中田 他
106	演習	医療チームの中での薬剤師(1)	松永 他
	演習	医療チームの中での薬剤師(2)	中田 他
107	講義	医薬分業の仕組みと意義	中田 他
201	講義	処方せんの法的位置づけと機能	瀬川 他
202	講義・演習	処方オーダーリングシステム	京谷 他
203	講義・演習	処方せんの種類、特徴、必要記載事項	塩原 他
	講義・演習	調剤権と義務	庄野 他
204	講義・演習	処方せん鑑査	庄野 他
	講義・演習	疑義照会	庄野 他
205	講義	代表的な医薬品の用法・用量	庄野 他
	講義	代表的な医薬品の投与計画	庄野 他
206	講義・演習	剤形を選択(1)	中田 他
	講義・演習	剤形を選択(2)	中田 他
207	講義・演習	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量(1)	市川 他
	講義・演習	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量(2)	市川 他
208	講義・演習	患者の特性に適した用量を計算	市川 他
	講義・演習	病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定	市川 他
209	講義	服薬指導の意義	石田 他
210	実習	代表的な処方せん例の鑑査(1)	医療薬学系教員
	実習	代表的な処方せん例の鑑査(2)	医療薬学系教員
	実習	処方せん例に従って、計数調剤(1)	医療薬学系教員
	実習	処方せん例に従って、計数調剤(2)	医療薬学系教員
	実習	処方せん例に従って、計数調剤(3)	医療薬学系教員
	実習	処方せん例に従って、計量調剤(1)	医療薬学系教員
	実習	処方せん例に従って、計量調剤(2)	医療薬学系教員
	実習	処方せん例に従って、計量調剤(3)	医療薬学系教員
	実習	調剤された医薬品の鑑査(1)	医療薬学系教員
	実習	調剤された医薬品の鑑査(2)	医療薬学系教員
211	演習	処方せんの鑑査の意義とその必要性(1)	山川 他
	演習	処方せんの鑑査の意義とその必要性(2)	山川 他
	演習	処方せんの鑑査の意義とその必要性(3)	瀬川 他
301	講義	疑義照会の意義について、法的根拠	中田 他
302	実習	代表的な配合変化(1)	市川 他
	実習	代表的な配合変化(2)	市川 他
	実習	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化	市川 他
303	講義	不適切な処方せん(規格・用法・用量)	中田 他
	講義	不適切な処方せん(相互作用・禁忌)	中田 他

LS	学習方法	実務実習事前学習 コアカリ内容	担当教員(責任者)
304	演習	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携(1)	松永 他
	演習	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携(2)	松永 他
	演習	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携(3)	松永 他
305	講義	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量、警告、禁忌、副作用、相互作用	市川 他
	講義	疑義照会の流れ	庄野 他
306	実習・演習	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量(1)	庄野 他
	実習・演習	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量(2)	庄野 他
	実習・演習	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用(1)	京谷 他
	実習・演習	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用(2)	京谷 他
	実習・演習	代表的な医薬品について相互作用(1)	市川 他
	実習・演習	代表的な医薬品について相互作用(2)	市川 他
	実習・演習	疑義照会をシミュレートする(1)	医療薬学系教員
	実習・演習	疑義照会をシミュレートする(2)	医療薬学系教員
401	講義	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	中田 他
402	講義	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	中田 他
403	講義	毒薬・劇薬・麻薬、向精神薬などの管理と取扱い	中田・岩城
404	講義	血漿分画製剤・輸血用血液製剤の管理および取扱い	浜田 他
405	講義	代表的な生物製剤の種類と適応、生物製剤の管理と取扱い	中田 他
406	実習	代表的な生物製剤の種類と適応、生物製剤の管理と取扱い	中田 他
	実習	毒薬・劇薬・麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(実習)	中田 他
	実習	代表的な生物製剤の種類と適応、生物製剤の管理と取扱い(実習)	中田 他
407	講義	代表的な放射性医薬品の種類と用途、管理と取扱い	塩原 他
408	講義	院内製剤	京谷 他
409	講義	薬局製剤	瀬川 他
410	実習	代表的な院内製剤の調製(1)	医療薬学系教員
	実習	代表的な院内製剤の調製(2)	医療薬学系教員
	実習	代表的な院内製剤の調製(3)	医療薬学系教員
411	実習	無菌操作法(1)	医療薬学系教員
	実習	無菌操作法(2)	医療薬学系教員
	実習	無菌操作法(3)	医療薬学系教員
	実習	抗悪性腫瘍剤などのケミカルハザード回避の基本的な手技(1)	医療薬学系教員
	実習	抗悪性腫瘍剤などのケミカルハザード回避の基本的な手技(2)	医療薬学系教員
	実習	抗悪性腫瘍剤などのケミカルハザード回避の基本的な手技(3)	医療薬学系教員
412	実習	注射剤の代表的な配合変化・溶解度・化学反応	市川 他
	実習	PH変動試験・滴定酸度	市川 他
	実習	輸液・TPN中の酸塩基反応	市川 他
413	実習	代表的な輸液の種類と適応	市川 他
	実習	経管栄養剤の種類と適応	市川 他
	実習	電解質の計算	市川 他
414	講義	代表的な消毒薬の用途、使用濃度、注意点	京谷 他
501	講義	Medikation エラー	山川 他
502	講義	重大なエラー事例	山川 他
503	講義	院内感染対策	庄野 他
504	講義	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見(1)	松永 他

LS	学習方法	実務実習事前学習 コアカリ内容	担当教員(責任者)
504	講義	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見(2)	松永 他
505	演習	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見(1)	松永・末永
	演習	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見(2)	松永・末永
	演習	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見(3)	松永・末永
506	演習	調剤におけるエラー分類	瀬川 他
	演習	院内製剤におけるエラー分類	京谷 他
	演習	エラー回避のための方策	京谷 他
507	演習	エラー報告	京谷 他
	演習	エラー経験の共有化	京谷 他
	演習	エラー対策	京谷 他
601	講義	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務	石田 他
602	講義	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点	石田 他
	講義	代表的な疾患において注意すべき生活指導	石田 他
603	演習	インフォームド・コンセント、守秘義務	石田 他
	演習	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する	石田 他
604	講義	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点	石田 他
605	講義・演習	服薬指導の目的	石田 他
	講義・演習	患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)	石田 他
	講義・演習	医師、看護師などとの情報の共有化、患者接遇への配慮	石田 他
606	演習	代表的な医薬品について、適切な服薬指導	石田 他
	演習	共感的態度で患者インタビュー	石田 他
	演習	患者背景に配慮した服薬指導(高齢者)	石田 他
	演習	患者背景に配慮した服薬指導(小児・妊婦)	石田 他
	演習	薬剤指導記録簿	瀬川 他
	演習	SOAP方式による服薬指導記録	瀬川 他
701	実習	代表的な処方箋例の鑑査を行うことができる。(1)	医療薬学系教員
	実習	代表的な処方箋例の鑑査を行うことができる。(2)	医療薬学系教員
	実習	疑義照会をシミュレートできる。	医療薬学系教員
	実習	処方箋例に従って計数調剤をシミュレートできる。(1)	医療薬学系教員
	実習	処方箋例に従って計数調剤をシミュレートできる。(2)	医療薬学系教員
	実習	処方箋例に従って計量調剤をシミュレートできる。(1)	医療薬学系教員
	実習	処方箋例に従って計量調剤をシミュレートできる。(2)	医療薬学系教員
	実習	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(1)	医療薬学系教員
	実習	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(2)	医療薬学系教員
	実習	患者背景に配慮した服薬指導ができる。	医療薬学系教員

(基礎資料7) 学生受入状況

	学科名	入試の種類		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(20年度実施)	入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	140	149	120	117	167	208	68
			合格者数	125	128	101	96	138	182	
			入学者数(A)	57	56	41	39	65	77	
			募集定員数(B)	105	105	105	90	90	90	
			A/B*100(%)	54	53	39	43	72	84	
		大学入試センター入試	受験者数	91	93	69	107	106	133	
			合格者数	53	56	52	73	71	103	
			入学者数(A)	7	12	5	8	8	12	
			募集定員数(B)	15	15	15	15	15	15	
			A/B*100(%)	47	80	33	53	53	80	
		A〇入試	受験者数	20	17	4	7	9	6	
			合格者数	20	17	4	7	9	6	
			入学者数(A)	18	16	4	7	9	6	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
			A/B*100(%)	180	160	40	70	90	60	
	附属校推薦	受験者数								
		合格者数								
		入学者数(A)								
		募集定員数(B)								
		A/B*100(%)								
	指定校推薦	受験者数	27	19	18	10	16	17		
		合格者数	27	18	18	10	16	17		
		入学者数(A)	27	18	18	10	16	17		
		募集定員数(B)	公募推薦入試に含まれる	公募推薦入試に含まれる	公募推薦入試に含まれる	公募推薦入試に含まれる	公募推薦入試に含まれる	公募推薦入試に含まれる		
		A/B*100(%)								
	公募推薦入試	受験者数	66	41	40	51	71	90		
		合格者数	52	36	31	42	62	81		
		入学者数(A)	31	25	20	30	41	53		
		募集定員数(B)	70	70	70	65	65	65		
		A/B*100(%)	83	61	54	62	88	108		
	社会人入試	受験者数	0	1	2	5	2	1		
		合格者数	0	1	2	4	2	1		
		入学者数(A)	0	0	1	3	1	1		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)								
	留学生入試	受験者数	0	0	1	0	1	6		
		合格者数	0	0	1	0	1	6		
		入学者数(A)	0	0	1	0	1	6		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)								
	帰国生徒入試	受験者数	0	0	0	0	0	0		
		合格者数	0	0	0	0	0	0		
入学者数(A)		0	0	0	0	0	0			
募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
A/B*100(%)										
学科計	受験者数	344	320	254	297	372	461			
	合格者数	277	256	209	232	299	396			
	入学者数(A)	140	127	90	97	141	172			
	募集定員数(B)	200	200	200	180	180	180			
	A/B*100(%)	70	64	45	54	78	96			

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	34名
②設置基準において、必要な実務家教員数	6名

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	0	0	0	0	0	
語学教育	0	0	0	0	0	
薬学基礎教育	2	1	0	0	1	
専門薬学教育	17(1)	11	6	15	1	特任教授:1
実務実習教育	7(2)	1	0	1	2	特任教授:2
小計	26(3)	13	6	16	4	
専任教員数	61(3)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	0	2	1	45		
法人業務関連	1	6	2	13		
小計	1	8	3	58		
事務職員数	70					

- [注] 1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
- 2 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 3 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示:6(2)=6名のうち2名が特任)
- 4 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示:3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 6 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	1	9	11	2			23
	4.4%	39.1%	47.8%	8.7%	%	%	100%
准教授		2	4(1)	6	1		13(1)
	%	15.4%	30.7%	46.2%	7.7%	%	100%
専任講師			1(1)	2	3(1)		6(2)
	%	%	16.7%	33.3%	50%	%	100%
助教			3(2)	3(1)	10(3)		16(6)
	%	%	18.7%	18.8%	62.5%	%	100%
合計	1	11	19(4)	13(1)	14(4)		58(9)
	1.7%	19%	32.8%	22.4%	24.1%	%	100%
定年年齢	65	歳					

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示：2(1)=2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号									
								科目名	講義		演習		実験・実習 ・実技		計		前期	後期	前期			後期								
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
薬学科	薬化学講座	教授	あさかわ よしのり 浅川 義範	男	71	1976.10.1	1981.4.1	英語C①	1.5						1.5						3.0 0.1 0.3 3.4 4.7	広島大学大学院理学研究科博士課程修了理学博士								
								英語C②	1.5																					
								早期体験学習																						
								有機薬化学実習																						
								薬学基礎演習1																						
								実践栄養学	0.3																					
								計	3.0	0.3	0.0	0.1	0.1	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	6.0	6.0			3.0	3.4						
薬学科	薬品物理化学実習	教授	ふくやま よしやす 福山 愛保	男	65	1988.4.1	1995.4.1	薬品物理化学実習																						
								早期体験学習																						
								文理学	0.1																					
								医薬品創製学1																						
								化学反応論																						
								薬学基礎演習1																						
								計	0.1	3.0	0.0	0.1	0.1	6.0	6.0	0.0	0.0	6.1	6.1	3.1										
薬学科	薬品製造学講座	教授	いまがわ ひろし 今川 洋	男	47	1995.4.1	2011.4.1	医薬品製造学1	1.5																					
								早期体験学習																						
								文理学	0.1																					
								創薬化学2	0.3																					
								医療環境論	0.1																					
								医薬品製造学2																						
								計	2.0	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	5.0	6.0										
薬学科	薬品化学講座	教授	つのだ てつと 角田 鉄人	男	58	1988.4.1	1996.4.1	有機化学1	1.5																					
								早期体験学習																						
								薬物作用科学1	0.5																					
								有機化学2																						
								基礎ゼミナールA																						
								薬品化学実習																						
								計	2.0	1.5	0.0	0.0	1.6	3.0	3.0	3.0	5.0	5.0	6.1											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 学位称号										
								科目名	講義						毎週授業時間数							計									
									前期		後期		前期		後期		前期		後期				計								
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
薬学科	薬品分析学 講座	教授	とおり ともお 通 元夫	男	64	1983.4.1	1995.4.1	薬品分析学3	1.5							1.5								東京大学大 学院理学研 究科修士課 程 修了 理学博士							
								薬品分析学実習																							
								早期体験学習																							
								精密構造解析学																							
								生体分子解析学																							
								薬学基礎演習1																							
	計							1.7	1.5	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	1.6		4.7								
薬学科	生薬学 講座	教授	はしもと としひろ 橋本 敏弘	男	65	1973.4.1	2006.4.1	天然物化学	0.6																徳島大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学博士						
								早期体験学習																							
								天然医薬品学																							
								生薬学実習																							
								薬学基礎演習1																							
								漢方調剤																							
	計							0.6	0.9	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.6	4.0			3.8								
薬学科	生化学 講座	教授	くずはら たかし 葛原 隆	男	47	2005.4.1	2008.4.1	バイテク/ロジ-論1	1.5																東京大学大 学院薬学系 研究科修士 課程 修了 薬学博士						
								分子生物学1																							
								生化学実習																							
								早期体験学習																							
								ゲノムと創薬																							
								分子生物学2																							
	計							3.3	1.5	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	9.3	1.6				5.5								
薬学科	微生物学 講座	教授	ながはま まさひろ 永浜 政博	男	54	1983.4.1	2010.4.1	微生物学	1.5																徳島文理大 学院薬学 研究科修 士課程 修了 薬学博士						
								早期体験学習																							
								医療系特別演習																							
								免疫学																							
								薬物治療学1																							
								微生物学総論																							
	計							1.5																7.4							

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号								
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計												
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
									1.5	0.1	1.5	0.3	3.0	0.1	1.5	3.0	0.1										
薬学科	衛生化学講座	教授	ひめの せいいちろう 姫野 誠一郎	男	58	2003.4.1	2003.4.1	栄養化学	1.5					1.5					1.5	東京大学大学院医学系 研究科博士課程 修了 保健学博士							
								早期体験学習	0.1															3.0			
								機能的食品																		0.1	
								食品衛生学																			1.5
								衛生化学実習																			3.0
								薬学基礎演習1																			0.1
								実践栄養学																			0.3
								解析衛生系総合演習																			0.8
								計	1.6	1.8	0.0	0.9	3.0	3.0	3.0	3.0	4.6	5.7									5.2
								応用分析学	1.5																		
薬学科	公衆衛生学講座	教授	すずき しんや 鈴木 真也	男	52	2002.12.1	2010.4.1	公衆衛生学1	1.5											1.5							
								早期体験学習	0.5															3.0			
								薬物作用科学2	0.3																0.5		
								ゲノムと創薬	0.3	1.5																0.3	
								公衆衛生学2																		1.5	
								公衆衛生学実習																		3.0	
								解析衛生系総合演習																		0.8	
								計	3.8	1.5	0.0	0.8	3.0	3.0	3.0	6.8	5.3									6.1	
								応用細胞生物学1	1.5																		1.5
								薬学科	薬理学講座	教授	あかぎ まさあき 赤木 正明	男	63	1990.4.1	1991.4.1	基礎薬理学	1.5										
薬理学実習	0.3																							3.0			
早期体験学習																									3.0		
ゲノムと創薬																										3.0	
薬理学1																										1.5	
薬学基礎演習1																										0.1	
臨床系総合演習																										1.2	
計	3.3	1.5	0.0	1.3	6.0	0.0	0.0	9.3	2.8									6.1									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号									
								毎週授業時間数																				
								講義		演習		実験・実習・実技		計														
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
薬学科	薬剤学講座	教授	さくらい えいいち 櫻井 栄一	男	59	2009.4.1	2009.4.1	薬物動態学2	1.5						1.5					1.5	東北薬科大 大学院薬博 学研究科博 士後期課程 修了 薬学博士							
								日本薬局方	0.8													0.8						
								薬剤学実習			3.0											3.0						
								早期体験学習														3.0						
								実践的コミュニケーション	0.3													0.3						
								薬物動態学1									1.5											
								薬学基礎演習1										0.1										
								薬物動態学演習										1.5										
								医療系総合演習										0.9										
								臨床系総合演習									0.3											
計								2.6	1.5	0.0	2.8	6.0	0.0	8.6	4.3			6.5										
薬学科	機能形態学講座	教授	せつ こうじゅん 瀬津 弘順	男	68	1994.4.1	1994.4.1	病態生理学1	1.5						1.5					1.5	台湾中山医 学院医科系 修了 医学博士							
								病理学実習														3.0						
								早期体験学習														3.0						
								病態生理学2														1.5						
								計							1.5	1.5	0.0	0.0	6.0	0.0		7.5	1.5			4.5		
								薬物治療学3	1.5													1.5						
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	教授	まつなが よういち 松永 洋一	男	59	2005.4.1	2005.4.1	実務実習事前学習												3.0	福岡大学医 学部医学科 修了 医学博士							
								早期体験学習														3.0						
								創薬学演習														1.5						
								薬学基礎演習1														0.1						
								糖尿病総合講義														0.5						
								臨床系総合演習										1.2										
								計							1.5	0.5	0.0	2.8	6.0	3.0		7.5	6.3			6.9		
								薬物治療学5	1.5													1.5						
								実務実習事前学習																				
								早期体験学習																				
薬物治療学2																												
薬学基礎演習1																												
医薬品リスクマネジメント	0.5													0.5														
臨床系総合演習																												
計								2.0	1.5	0.0	0.6	6.0	3.0	8.0	5.1			6.6										
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	教授	しょうの ふみあき 庄野 文章	男	59	2006.4.1	2006.4.1	薬物治療学5	1.5						1.5					3.0	徳島文理大 学薬学部 卒業 医学博士							
								実務実習事前学習														3.0						
								早期体験学習														3.0						
								薬物治療学2														3.0						
								計							0.5	1.5		0.1	3.0	3.0		0.5						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学位及び学位称号													
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計																	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	教授	いちかわ つとむ 市川 勤	男	58	1985.4.1	2008.4.1	薬物治療学4	1.5					1.5					1.5					徳島文理大学大学院薬学研究所後期課程修士修了 薬学博士								
								実務実習事前学習																								
								早期体験学習	0.5																							
								応用生物統計学		1.5																						
								生物統計学																								
								医療系総合演習																								
社会薬学系総合演習																																
			計					2.0	1.5	0.0	1.2		6.0	3.0				8.0	5.7				6.9									
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	教授	なかた もとお 中田 素生	男	64	2009.4.1	2009.4.1	実務実習事前学習																	名城大学薬学部薬学科卒業							
								早期体験学習	0.3																							
								実践的コミュニケーション																								
								医薬品情報学演習2																								
								薬学基礎演習1																								
								地域薬学論																								
			計					0.3	2.0	0.0	0.1		6.0	3.0				6.3	5.1				5.7									
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	教授	きょうたに しょうじろう 京谷 庄二郎	男	59	2009.4.1	2009.4.1	医薬品情報学演習1	1.5															徳島大学大学院薬学研究所修士課程修了 博士(薬学)								
								薬物治療学5	0.5																							
								実務実習事前学習																								
								早期体験学習																								
								専門薬剤師論	0.1																							
								薬物治療学6																								
医薬品適正使用																																
新興・再興感染症																																
			計					2.1	2.3	0.0	0.0		6.0	3.0				8.1	5.3				6.7									
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	教授	やまかわ かずのぶ 山川 和宣	男	63	2012.4.1	2012.4.1	薬物治療学5	0.5															大阪薬科大学薬学部薬学卒業								
								早期体験学習																								
								実務実習事前学習																								
								医薬品開発学	1.0																							
								薬学概論2																								
								薬学基礎演習1																								
医薬品適正使用																																
			計					1.5	1.1	0.0	0.1		6.0	3.0				7.5	4.2				5.9									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号											
								科目名	講義						演習							実験・実習 ・実技		計								
									前期		後期		前期		後期		前期		後期			前期	後期									
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
薬学科	生薬研究所 講座	教授	とよた まさお 豊田 正夫	男	59	1978.1.1	2007.4.1	総合科目A	3.0									3.0						近畿大学工 学部工業化 学科 修了 薬学博士								
								早期体験学習																								
								精密構造解析学	0.2																							
								薬物構造学		1.5																						
								化学系特別演習			3.0																					
								総合科目B																								
化学実習																																
									3.2	4.5	0.0	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	6.2	9.0					7.6									
薬学科	薬学教育 センター	教授	あきた まさひこ 秋田 昌彦	男	60	1995.4.15	2011.4.1	人体機能学1	1.5															新潟大学理 学部化学科 卒業 医学博士								
								早期体験学習																								
								医薬品リスクマネジメント	0.5																							
								人体機能学2		1.5																						
								がん総合講義			0.5																					
									2.0	2.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	5.0	2.0						3.5									
薬学科	医療薬学・ 薬物治療学 講座	教授	せがわ まさあき 瀬川 正昭	男	59	2010.4.1	2010.4.1	薬学概論1	1.5															城西大学薬 学部薬学科 卒業								
								実務実習事前学習																								
									1.5	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	4.5	3.0						3.8									
薬学科 (一般総合 科目)	薬学教育 センター	教授	みつお なおき 三尾 直樹	男	63	1978.11.1	1990.4.1	製剤学	1.5															東京大学大 学院薬学系 研究科博士 課程 修了 薬学博士								
								物理化学1	1.5																							
								早期体験学習																								
								高齢者医療	0.1																							
								社会薬学		1.5																						
								物理学B			1.5																					
									3.1	3.0	0.0	1.3	3.0	0.0	6.1	4.3							5.2									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号																	
								毎週授業時間数																												
								講義		演習		実験・実習・実技		計																						
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																					
薬学科	薬化学講座	准教授	ながしま ふみひろ 長島 史裕	男	51	1990.4.1	2007.4.1	医薬品化学	1.5															徳島文理大学大学院薬学研究所後期課程修了 薬学博士												
								化学A	0.4																											
								早期体験学習																												
								薬物作用科学1	0.5																											
								有機薬化学実習																												
								薬学基礎演習2																												
								計	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3			
薬学科	薬品分析学講座	准教授	そうの まさかず 宗野 真和	男	51	1989.4.1	2007.4.1	薬品分析学2	1.5																											
								解析衛生系特別演習																												
								化学A	0.4																											
								薬品分析学実習																												
								早期体験学習																												
								精密構造解析学	0.2																											
								薬品分析学1																												
								薬学基礎演習2																												
								分子薬効論																												
								解析衛生系総合演習																												
計	2.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	5.8									
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	准教授	しおばら よしのり 塩原 義則	男	62	1983.4.1	1995.4.1	薬事関係法規	1.5																											
								放射化学実習																												
								早期体験学習																												
								放射薬化学																												
								放射化学																												
								薬学基礎演習2																												
								地域薬学論																												
								化学系総合演習																												
								社会薬学系総合演習																												
								計	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号														
								科目名	講義		演習		実験・実習 ・実技		計																		
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
薬学科	生薬学講座	准教授	うめやま あけみ 梅山 明美	女	57	1979.4.1	2010.4.1	早期体験学習				3.0			3.0		3.0						4.7	広島大学理 学部卒業 薬学博士									
								生薬学実習																									
								薬用植物学	1.5																								
								東洋医学概論	1.5																								
								薬学基礎演習2	0.3		0.1																						
								漢方調剤																									
薬学科	衛生化学講座	准教授	すみ だいご 角 大悟	男	41	2009.4.1	2009.4.1	毒性学	1.5																								
								環境衛生学	1.5																								
								早期体験学習																									
								衛生化学実習																									
								薬学基礎演習2																									
								糖尿病総合講義	0.5																								
								解析衛生系総合演習																									
								計	3.0	0.5	0.0	0.8	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
								薬理学2																									
								薬学科	薬理学講座	准教授	ふくいし のぶゆき 福石 信之	男	49	1992.4.1	1998.4.1	薬理学実習	0.5																
早期体験学習																																	
応用生物統計学	0.5																																
薬理学3																																	
薬学基礎演習2																																	
処方せん解析学	0.1																																
臨床系総合演習																																	
計	1.0	1.6	0.0	1.0	6.0	6.0	6.0									6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	
薬学科	機能形態学講座	准教授	いのうえ まさひさ 井上 正久	男	49	2002.4.1	2010.4.1	病理学実習																									
								人体構造学	1.5																								
								応用生物学A	1.5																								
								早期体験学習																									
								薬学基礎演習2																									
								医療系総合演習																									
								生物系総合演習																									
								計	3.0	0.0	0.0	2.2	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号										
								科目名	講義		演習		実験・実習 ・実技		計														
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
薬学科	医療薬学・ 薬物治療学 講座	准教授	いしだ しろう 石田 志朗	男	53	1982.4.1	2007.4.1	薬物制御学	1.5					1.5								徳島文理大 学薬学部 卒業 薬学博士							
								日本薬局方	0.8					0.8															
								実務実習事前学習																					
								早期体験学習																					
								薬学基礎演習2																					
								がん総合講義		0.5																			
								社会薬学系総合演習																					
計	2.3	0.5	0.0	0.6				6.0	3.0				8.3	4.1						6.2									
薬学科	機器分析 センター	准教授	たなか まさみ 田中正巳	男	60	1978.1.1	2007.4.1	総合科目A	3.0					3.0									徳島大学大 学院工学研 究科修士課 程修了 博士(薬学)						
								早期体験学習	0.2						3.0														
								精密構造解析学																					
								総合科目B		3.0																			
								薬学基礎演習2																					
								計	3.2	3.0	0.0	1.0				3.0	0.0				6.2	4.0							
								計	3.0												3.0								
薬学科	生薬研究所 講座	准教授	たかはし ひろのぶ 高橋 宏暢	男	48	1996.4.1	2007.4.1	総合科目A	3.0					3.0									徳島文理大 学院薬博 学研究所博 士後期課程 修了 薬学博士						
								物理学A	1.5																				
								応用細胞生物学2	1.5																				
								早期体験学習	0.5																				
								薬物作用科学2																					
								総合科目B																					
								化学実習																					
計	6.5	3.0	0.0	0.1				3.0	0.0				9.5	6.1															
薬学科	生薬研究所 講座	准教授	のじ まさあき 野路 征昭	男	46	2007.4.1	2007.4.1	早期体験学習						3.0									千葉大学大 学院薬学研 究科博士後 期課程修了 博士(薬学)						
								生物系特別演習																					
								精密構造解析学	0.2																				
								バイオテクノロジー論2	1.0																				
								細胞生物学																					
								生物学実習																					
								計	1.2	1.5	1.5	1.2				3.0	3.0				5.7	5.7							

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号												
								科目名	毎週授業時間数						計																		
									講義		演習		実験・実習 ・実技		前期	後期	前期	後期	前期			後期											
									前期	後期	前期	後期	前期	後期																			
薬学科	薬品製造学 講座	准教授	やまもと ひろふみ 山本 博文	男	36	2007.4.1	2012.4.1	無機化学	1.5						1.5									徳島文理大 大学院薬 学研究科博 士後期課程 修士(薬学)									
								早期体験学習																									
								創薬化学1	1.0																								
								薬品製造学実習																									
								薬学基礎演習2																									
								化学系総合演習																									
								医療系総合演習																									
計								2.5	0.0	0.0	0.0	1.2	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.2	4.9											
薬学科	医療薬学・ 薬物治療学 講座	准教授	はまだ よしのり 浜田 嘉則	男	47	2011.10.1	2011.10.1	薬学概論1	0.8																								
								実務実習事前学習																									
								薬学概論2																									
								医薬品適正使用																									
								計							0.8	1.1	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.1	4.0				
								物理化学3	1.5																								
								薬品物理化学実習																									
薬学科	薬品物理化 学講座	講師	どうのうえ みわ 堂上 美和	女	37	2000.4.1	2010.4.1	早期体験学習																									
								物理化学2																									
								薬学基礎演習2																									
								化学系総合演習																									
								計							1.5	1.5	0.0	0.0	0.7	6.0	6.0	0.0	7.5	7.5	2.2	4.9							
								有機化学4	1.5																								
								化学A	0.4																								
薬学科	薬品化学 講座	講師	かく ひろと 加来 裕人	男	40	1997.4.1	2009.4.1	早期体験学習																									
								創薬化学2																									
								基礎ゼミナールB																									
								薬品化学実習																									
								薬学基礎演習2																									
								有機化学3																									
								化学系総合演習																									
計							2.2	3.0	0.0	0.0	1.3	3.0	3.0	3.0	5.2	5.2	7.3	6.3															

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号								
								科目名	講義		演習		実験・実習 ・実技		計												
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
									1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5											
薬学科	生化学 講座	講師	はたけやま だい 島山 大	男	38	2009.4.1	2009.4.1	生化学2	1.5				1.5	3.0		1.5	1.5	北海道大学 大学院理学 研究科博士 後期課程 修了 博士(理学)									
								生化学実習					3.0				3.0				0.1	1.5					
								早期体験学習					3.0									0.3	0.9				
								生化学1				1.5											2.5	5.2			
								薬学基礎演習2																			
								実践的コミュニケーション	0.3																		
								生物系総合演習																			
								計	1.8	1.5	0.0	1.0	6.0	0.0	7.8	2.5											
								生物有機化学	1.5																		
								化学A	0.4																		
薬学科	生薬研究所 講座	講師	江角 朋之	男	43	2003.4.1	2003.4.1	創薬化学2	0.3									長崎大学大 学大学院薬学研 究科博士後 期課程 修了 博士(薬学)									
								生体分子構造学														1.5	1.5				
								化学実習																3.0	3.0		
								薬学基礎演習2																	0.1	0.1	
								計	2.2	1.5	0.0	0.1	3.0	3.0	5.2	4.6											
								物理化学1	1.5																		
								早期体験学習																			
								有機薬化学実習																			
								薬学基礎演習2																			
								薬学科	薬化学 講座	講師	伊藤 卓也	男	39	2007.11.7	2013.4.1	新興・再興感染症											大阪大学大 学大学院薬学研 究科博士後 期課程 修了 博士(薬学)
化学系総合演習																						0.1	0.5				
医療系総合演習																								0.6	0.6		
社会薬学系総合演習																									0.9	0.9	
計	1.5	0.5	0.0	1.9	6.0	0.0	7.5									2.4											
天然物化学	0.4																										
早期体験学習																											
生薬学実習																											
天然医薬品学																											
薬学基礎演習2																											
計	0.4																										
薬学科	生薬学 講座	講師	吉川 和子	女	56	1979.4.1	2013.4.1	生薬学実習										徳島文理大 学薬学部 卒業 博士(薬学)									
								天然医薬品学																3.0	3.0		
								薬学基礎演習2																		0.4	0.4
								計	0.4	0.4	0.0	0.1	3.0	3.0	3.4	3.5											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号										
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技				計														
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計												
																						前期	後期								
薬学科	薬品物理化学講座	助教	はらだけんいち 原田 研一	男	34	2006.4.1	2007.4.1	薬品物理化学実習				3.0			3.0									徳島文理大学大学院薬学修士課程修了 博士(薬学)							
								早期体験学習				3.0				3.0															
								化学系総合演習	0.3																						
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	3.2	
薬学科	薬品化学講座	助教	ほりかわみつよ 堀川 美津代	女	57	1978.4.1	2009.4.1	薬品化学実習				3.0			3.0									徳島文理大学薬学部卒業 博士(薬学)							
								早期体験学習																							
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	
								薬品製造学実習																							
薬学科	薬品製造学講座	助教	かさいゆうすけ 葛西 祐介	男	37	2013.4.1	2013.4.1	薬品製造学実習																東北大学大学院理学研究科博士課程修了 博士(理学)							
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5	
								薬品分析学実習																							
								早期体験学習																							
薬学科	薬品分析学講座	助教	なかしまかつゆき 中島 勝幸	男	44	1997.4.1	2007.4.1	薬品分析学実習				3.0			3.0									徳島文理大学大学院薬学修士課程修了 博士(薬学)							
								早期体験学習																							
								解析衛生系総合演習	0.6																						
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	3.3	
薬学科	生化学実習	助教	しょうじまさき 庄司 正樹	男	30	2012.4.1	2012.4.1	生化学実習				3.0			3.0									大阪大学大学院薬学修士課程修了 博士(薬学)							
								早期体験学習																							
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0
								微生物学実習																							
薬学科	微生物学講座	助教	でざきけいこ 出崎 敬子	女	55	1980.4.1	2007.4.1	微生物学実習				3.0			3.0									徳島文理大学薬学部卒業 博士(薬学)							
								早期体験学習																							
								微生物学	1.5																						
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	3.8	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号										
								科目名	講義						演習							実験・実習 ・実技		計							
									前期		後期		前期		後期		前期		後期			前期	後期								
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
薬学科	衛生化学講座	助教	みやたか ひでき 宮高 透喜	男	56	1982.4.1	2007.4.1																		徳島文理大 大学院薬博 学研究所前 期課程修了 博士(薬学)						
								0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.3	3.0	3.0	6.0		0.0	0.3				
														3.0	3.0	6.0			3.0	3.0	6.0			3.0		3.0	6.0			3.0	3.0
								0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.3	3.0	3.0	6.0		0.0	0.3				
薬学科	衛生化学講座	助教	ふじしろ ひとみ 藤代 瞳	女	36	2004.4.1	2007.4.1																		徳島大学大 学大学院薬 学研究所後 期課程修了 博士(薬学)						
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0		0.0	0.0				
														3.0	3.0	6.0			3.0	3.0	6.0			3.0		3.0	6.0			3.0	3.0
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0		0.0	0.0				
薬学科	公衆衛生学講座	助教	かわかみ たかしげ 川上 隆茂	男	34	2006.4.1	2007.4.1																		東京理科大 大学院薬博 学研究所後 期課程修了 博士(薬学)						
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.7	3.0	3.0	6.0		0.0	0.7				
														3.0	3.0	6.0			3.0	3.0	6.0			3.0		3.0	6.0			3.0	3.0
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.7	3.0	3.0	6.0		0.0	0.7				
薬学科	公衆衛生学講座	助教	かどた よしと 門田 佳人	男	34	2007.4.1	2007.4.1																		徳島大学大 学大学院薬 学部博士 教育課程 後期課程 修了 博士(薬学)						
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0		0.0	0.0				
														3.0	3.0	6.0			3.0	3.0	6.0			3.0		3.0	6.0			3.0	3.0
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0		0.0	0.0				
薬学科	薬理学講座	助教	まつい のぶあき 松井 敦聡	男	39	1998.4.1	2007.4.1																		徳島文理大 大学院薬博 学研究所前 期課程修了 博士(薬学)						
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0		0.0	0.0				
														3.0	3.0	6.0			3.0	3.0	6.0			3.0		3.0	6.0			3.0	3.0
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0		0.0	0.0				
薬学科	機能形態学講座	助教	あべ ともみ 阿部 友美	女	36	1999.4.1	2011.4.1																		徳島文理大 学薬学部 卒業 博士(薬学)						
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.6	3.0	3.0	6.0		0.0	0.6				
														3.0	3.0	6.0			3.0	3.0	6.0			3.0		3.0	6.0			3.0	3.0
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.6	3.0	3.0	6.0		0.0	0.6				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
									0.0	0.0	0.0	0.9	6.0	3.0	6.0	3.0	3.0		
薬学科	医療薬学・薬物治療学講座	助教	すえなが みどり 末永 みどり	女	37	2004.4.1	2007.4.1	実務実習事前学習				3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	徳島大学大学院薬学研究所 薬学修士課程修了 博士(薬学)		
								早期体験学習				3.0	3.0	0.3	0.3				
								臨床系総合演習						0.6	0.6				
								医療系総合演習						0.6	0.6				
薬学科	生薬研究所講座	助教	けんもく ひろみち 兼目 裕充	男	40	2007.11.1	2007.11.1	生物学実習				3.0	3.0	3.0	3.0	岩手大学大学院連合農学研究科 博士課程修了 博士(農学)			
								早期体験学習				3.0	3.0	3.0			3.0		
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0			3.0	3.0	
薬学科	生薬研究所講座	助教	やぎ やすゆき 八木 康行	男	37	2007.4.1	2007.4.1	薬剤学実習				3.0	3.0	3.0	3.5	岡山大学大学院自然科学研究所 博士課程修了 博士(薬学)			
								早期体験学習				3.0	3.0	0.2			0.2		
								解析衛生系総合演習						0.6			0.6		
								化学系総合演習						0.2			0.2		
薬学科	機器分析センター	助教	おかもと やすこ 岡本 育子	女	46	1989.4.1	2011.4.1	早期体験学習				3.0	3.0	3.0	1.7	徳島文理大学薬学部 卒業 博士(薬学)			
								解析衛生系総合演習						0.1			0.1		
								社会薬学系総合演習						0.3			0.3		
								計	0.0	0.0	0.0	0.4	3.0	3.0			0.4	0.4	

[注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センターなどを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1 授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を算出して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかでない場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○教員が担当時間3.0時間、◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

学部の特任教員の1週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）

薬学部（58人）

区分	教員	教授(23)	准教授(13)	講師(6)	助教(16)	備考
最高		7.6 授業時間	7.8 授業時間	6.3 授業時間	5.0 授業時間	1授業時間 90分
最低		3.5 授業時間	4.0 授業時間	3.5 授業時間	1.5 授業時間	
平均		5.6 授業時間	5.4 授業時間	4.9 授業時間	3.1 授業時間	

学部の専任教員の1週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）

1	教授	秋田 昌彦	3.5	1	准教授	浜田 嘉則	4.0	1	助教	葛西 祐介	1.5
2	教授	瀬川 正昭	3.8	2	准教授	長島 史裕	4.3	2	助教	岡本 育子	1.7
3	教授	橋本 敏弘	3.8	3	准教授	梅山 明美	4.7	3	助教	堀川 美津代	3
4	教授	瀬津 弘順	4.5	4	准教授	福石 信之	4.8	4	助教	庄司 正樹	3
5	教授	福山 愛保	4.6	5	准教授	山本 博文	4.9	5	助教	宮高 透喜	3.2
6	教授	通 元夫	4.7	6	准教授	田中 正巳	5.1	6	助教	藤代 瞳	3
7	教授	浅川 義範	4.7	7	准教授	角 大悟	5.2	7	助教	門田 佳人	3
8	教授	姫野 誠一郎	5.2	8	准教授	井上 正久	5.6	8	助教	松井 敦聡	3
9	教授	三尾 直樹	5.2	9	准教授	野路 征昭	5.7	9	助教	兼目 裕充	3
10	教授	葛原 隆	5.5	10	准教授	宗野 真和	5.8	10	助教	原田 研一	3.2
11	教授	今川 洋	5.5	11	准教授	石田 志朗	6.2	11	助教	中島 勝幸	3.3
12	教授	角田 鉄人	5.6	12	准教授	塩原 義則	6.3	12	助教	阿部 友美	3.3
13	教授	中田 素生	5.7	13	准教授	高橋 宏暢	7.8	13	助教	川上 隆茂	3.4
14	教授	山川 和宣	5.9	平均			5.4	14	助教	八木 康行	3.5
15	教授	鈴木 真也	6.1					15	助教	出崎 敬子	3.8
16	教授	赤木 正明	6.1					16	助教	末永 みどり	5
17	教授	櫻井 栄一	6.5					平均			3.1
18	教授	庄野 文章	6.6	1	講師	吉川 和子	3.5				
19	教授	京谷 庄二郎	6.7	2	講師	堂上 美和	4.9				
20	教授	市川 勤	6.9	3	講師	江角 朋之	4.9				
21	教授	松永 洋一	6.9	4	講師	伊藤 卓也	5.0				
22	教授	永浜 政博	7.4	5	講師	畠山 大	5.2				
23	教授	豊田 正夫	7.6	6	講師	加来 裕人	6.3				
平均			5.6	平均			4.9				

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	134名
5年生の在籍学生数	120名
6年生の在籍学生数	182名

	配属講座名	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	面積	配属学生1名当 たりの研究室の 広さ (㎡)
1	薬化学研究室	3	7	6	7	20	227.5	11.4
2	薬品物理化学研究室	3	7	6	9	22	227.5	10.3
3	薬品化学研究室	3	7	6	8	21	227.5	10.8
4	薬品製造学研究室	3	7	6	9	22	227.5	10.3
5	薬品分析学研究室	3	7	6	9	22	227.5	10.3
6	生薬学研究室	3	7	7	8	22	227.5	10.3
7	生化学研究室	3	7	7	8	22	227.5	10.3
8	微生物学研究室	2	7	6	8	21	227.5	10.8
9	衛生化学研究室	4	7	6	9	22	227.5	10.3
10	公衆衛生学研究室	3	8	5	9	22	227.5	10.3
11	薬理学研究室	3	7	6	7	20	227.5	11.4
12	薬剤学研究室	2	7	6	8	21	227.5	10.8
13	機能形態学研究室	3	7	6	9	22	227.5	10.3
14	医療薬学・薬物治療学 山川研究室	3	8	9	16	33	227.4	6.9
15	医療薬学・薬物治療学 京谷研究室	1	7	6	9	22	161.9	7.4
16	医療薬学・薬物治療学 松永研究室	2	7	7	8	22	161.7	7.4
17	医療薬学・薬物治療学 庄野研究室	1	4	3	5	12	163.75	13.6
18	医療薬学・薬物治療学 市川研究室	1	4	4	5	13	192.3	14.8
19	医療薬学・薬物治療学 中田研究室	1	1	2	6	9	111.34	12.4
20	生薬研究所研究室	6	11	8	16	35	455	13
21	薬学教育センター 秋田研究室	1	0	1	0	1	33	33
22	薬学教育センター 三尾研究室	2	0	1	9	10	122.8	11.2
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
	合計	56	134	120	182	436	4586.69	257.3

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとってない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 り面積(m ²) (A/B)	備考
徳島キャンパス	講義室	6	1,726	専用	1,717	801	2.15	
	実習室	6	3,053	専用	576	801	3.81	
	情報処理室(1)	2	282	専用	128	801	0.35	
	セミナー室	6	392	専用	210	801	0.49	
	機器分析センター	4	1,025	専用	94	801	1.28	
	臨床薬学センター	1	429	専用	80	801	0.54	
	共同利用室	2	98	専用	—	801	0.12	
	ハイテクリサーチ センター	5	223	専用	—	801	0.28	
	動物実験センター	14	437	専用	25	801	0.55	
	RI実験センター	2	192	専用	12	801	0.24	
	学生ラウンジ(1階)	1	140	専用	56	801	0.17	
	各階学生ラウンジ (4~11階)	8	368	専用	96	801	0.46	
	ロッカールーム	1	336	専用	—	801	0.42	
全学共通	情報処理室(2)	2	524.8	共用	204	3,540	0.14	人間生活学部(1351) 保健福祉学部(725) 総合政策学部(335) 音楽学部(68) 短期大学部(260) 薬学部(801)

メディアラボ (メディアセンター)	1	318	共用	80	3,540	0.09	人間生活学部(1351) 保健福祉学部(725) 総合政策学部(335) 音楽学部(68) 短期大学部(260) 薬学部(801)
グループ利用室 (メディアセンター)	5	63	共用	30	3,540	0.02	人間生活学部(1351) 保健福祉学部(725) 総合政策学部(335) 音楽学部(68) 短期大学部(260) 薬学部(801)
自習コーナー	4	1478.87	共用	186	3,540	0.2	人間生活学部(1351) 保健福祉学部(725) 総合政策学部(335) 音楽学部(68) 短期大学部(260) 薬学部(801)
薬用植物園	1	3,018	共用	—			

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
村崎凡人記念図書館	731	4,488	16.3	グループ学習室 研究個室	29	52	*学部 人間生活学部(1600) 保健福祉学部(720) 総合政策学部(320) 音楽学部(120) 短期大学部(460) 薬学部(1190) *大学院 薬学研究科(24) 人間生活学研究所(66)
21号館図書館分室	17	24	70.8	—	0	0	大学院生のみ 入室可能
計	748	4,512			29	52	

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成23年度	平成22年度	
村崎凡人記念図書館	370,220	約12万冊	1,214	43	13,629	22,043	5,119	5,211	6,932	
計										

[注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフロッピー、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。

4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬化学	職名 教授	氏名 浅川義範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成9から26 年1月まで	英語C1(2年生)英語C-2(3年生)の講義のなかに、外国人博士課程学生および外国人博士研究員を随時動員して教科書による講義の他に生の英語によるReading, hearing, transkatingをおこない英語授業の重要性を認識することができた。それにより授業評価も上がった。、	
2 作成した教科書、教材、参考書			
総合天然物 I I (化学と生物)	平成22年1月	Elsevier (Oxford, 英国) 社より植物二次代謝物の微生物変換の参考書、総ページ296を著した。	
精油ハンドブック	平成22年1月	CRC (Boca Raton, 米国) 社よりテルペン微生物代謝物の参考書、総ページ225ページを著した。	
天然物化学の進歩 第95巻	平成25年11月	Springer (Vienna, オーストリア) 社より蘚苔類生物・化学多様性、生物活性、化学系統分類と題し総ページ796の参考書を著した。	
天然物質発見のためのメタボミックス取扱い	平成25年12月	Springer (New York, 米国) 社よりChapter 1として蘚苔類の二次代謝物の取り扱いの参考書を著した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成19年4月～ から平成26 年1月まで	米国、オランダから著名な天然物化学者を招請しセミナーを開催、英語C-1、C-2正規科目授業への参加、学部学生、教員への植物化学研究成果の理解、またポーランドから4名、タイ、フランスから博士研究員1名、マレーシア、チリーから大学院博士課程学生を招請して研究室での研究成果の議論、戦略などを教員、学生と常時行わせて研究レベルの向上や日常会話に勤めた。その結果、学部3年生が国内シンポジウムで英語で発表し英語で質疑応答できるまでに進歩した。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Identification of cryptic species within liverwort <i>Conocephalum conicum</i> based on the volatile components. <i>Phytochemistry</i>	共著	2013年	<i>Phytochemistry</i> 95, 234-241.
Phytochemical studies on bryophytes: Bio- and chemical diversity, and biological Activity.	共著	2013年	<i>Phytochemistry</i> 91, 52-80.
Unusual Terpenyl acylphloroglucinols from <i>Dryopteris wallichana</i> .	共著	2012年	<i>Phytochemistry</i> 80, 115-122
Vasorelaxant effects of macrocyclic bis(bibenzyls) from liverworts.	共著	2011年	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 19, 4051-4056.
Zierane sesquiterpene lactone, cembrane and fusicoccane diterpenoids, from the Tahitian liverwort <i>Chandonanthus hirtellus</i> .	共著	2010年	<i>Phytochemistry</i> 71, 1387-94.

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
昭和62年1月～現在	Phytochemistry (英国) 理事
平成5年1月～現在	Flavour and Frangrance Journal (英) 理事
平成5年1月～現在	Planta Medica (ドイツ) 理事
平成10年1月～現在	Fitoterapia (英) 理事
平成10年1月～現在	Malaysian Journal of Sciences (マレーシア) 理事
平成16年1月～現在	Natural Produc Research(米) 理事
平成18年1月～現在	Asian Coordinating Group for Chemistry(マレーシア) 理事
平成18年1月～現在	Medicinal and Aromatic Plants Abstracts (インド) 理事
平成18年1月～現在	Arkivoc (米) 理事
平成18年1月～現在	Natural Product Communication(米) 理事
平成18年1月～現在	Current Chemical Biology (米) 理事
平成20年4月～現在	Recent Research Development in Phytochemistry(インド) 理事
平成20年1月～現在	Meidinal and Aromatic Plants(米) 理事
平成20年1月～現在	The Open Cell Development and Biology (米) 理事
平成23年1月～現在	Phytochemical Letters(英) 理事
平成22年1月～現在	Scientia Pharmaceutica (オーストリア) 理事
平成22年1月～現在	Journal of Traditional and Complementary Medicine (台湾) 理事
平成5年1月～13年～現在	Spectroscopy編集委員長、理事
平成5年1月～10年～現在	Phytomedicine(英) 理事、副編集委員長、編集委員長、理事
平成15年4月～現在	金沢工業大学客員教授
平成21年10月	天然物協会(マレーシア) から国際賞JACK CANNON GOLD MEDAL受賞
平成23年3月	ルブリン医科大学(ポーランド) 客員教授
平成23年3月	ルブリン医科大学(ポーランド) 国際的卓越した植物化学研究よりGold Medal 受賞
平成23年5月	ルブリン医科大学(ポーランド) よりDr. Honoris Causa (名誉博士号) 称号受章
平成23年9月	日本生薬学会賞(日本生薬学会)
平成24年11月	アミテイ大学(インド) より名誉教授の称号受章
平成24年11月	インド国際伝承薬理協会FELLOWの称号を受章

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 福山愛保
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年4月1日	新入生対象に課題教育を義務付け、勉学意欲の向上と学習継続の習慣付ける「課題学習」を実践する。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 天然物の全合成 2000~2008		共著	平成21年10月
(総説) Chemistry and Biological Activities of Vibane-type Diterpenoids		共著	平成21年7月
(論文) Novel Pentacyclic seco-Prezizaane-type Sesquiterpenoids with Neurotrophic Properties from Illicium jiadifengpi		共著	平成21年10月
(論文) Synthesis of the ABC Ring System of Jiadifenin via Pd-Catalyzed Cyclizations.		共著	平成23年2月
(論文) Total Synthesis of Riccardin C and (±)-Cavicularin via Pd-catalyzed Ar-Ar Cross Couplings		共著	平成25年8月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			化学同人
			Heterocycles, vol. 81, No. 7.
			Org. Lett., vol. 11, No. 22
			Org. Lett., vol. 13, No. 5
			Tetrahedron, vol. 69, No. 34
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月~平成23年3月	大塚製薬株式会社微生物研究所研究顧問		
平成22年4月~平成24年3月	日本薬学会発刊雑誌 CPB 編集委員		
平成23年4月~	徳島新聞賞推薦委員		
平成23年4月~	徳島県薬事審議委員		
平成23年4月~平成24年6月	日本薬科大学協会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品製造学	職名 教授	氏名 今川 洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月- 2014年3月	学生に講義後の勉学の習慣を付けさせるために、講義毎に課題を出題し、次回の講義に提出させることを実践した。期末試験は、課題の内容を考慮して出題する事で、課題演習への取り組みを誘導した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009-2014年1月	CBT対策 C4全SBO解説問題集改訂版(全56ページ) 薬剤師国家試験演習講義資料2012改訂(全99ページ)、卒業演習基礎化学講義資料(全32ページ) 医薬品製造1及び2用演習プリント(全36枚)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年4月-5月 2013年8月29日	TBL形式補講クラスの計画と実施, TBL形式選択科目「医療環境論」の実施 平成25年度文部科学省「薬学教育指導者のためのワークショップ」参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Novel inhibitor of bacterial sphingomyelinase, SMY-540, developed based on three-dimensional structure analysis,	共著	平成25年	<i>J. Enzyme Inhib. Med. Chem.</i> Ahead of Print 1-8.
Syntheses of Structurally-simplified and Fluorescently-labeled Neovibsanin Derivatives and Analysis of their Neurite Outgrowth Activity in PC12 cells	共著	平成24年	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 22, 2089-2093
PC12細胞に対する突起伸展促進活性を持つネオビブサン類の合成ーアルツハイマー病の新しい治療薬をめざしてー	共著	平成22年5月	シーエムシー出版, 日本初ブロックバスターを目指して
Synthesis and Evaluation of Novel Phosphate Ester Analogs as Neutral Sphingomyelinase Inhibitors	共著	平成22年	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 20, 3868-3871.
Total Synthesis of (±)-Neovibsanin B.	共著	平成21年	<i>Org. Lett.</i> , 11 (6), 1253-1255
III 学会等および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
徳島文理大学大学	講座名 薬品化学	職名 教授	氏名 角田 鉄人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		平成19年以降	有機化学1は高校の化学から大学の化学への橋渡しの講義と位置づけ、薬学における化学の重要性を伝える導入的教育とした。有機化学2で、本格的な有機化学の講義が開始され、アルカン、アルケン、を例として、有機化合物の性質、反応の成り立ちなどを理解するための基本的な原理を教授した。薬品化学実習では、医薬品の化学について実習をどうして学ぶ方法を提供した。 基礎ゼミナールAでは、生命現象に化学がどのように関わっているかを、統合型の教育プログラムとして提供した。 これら講義を通し、化学に親近感がわくように務めた。講義中に練習問題を行うことで、学習内容をその日の内に修得するように務めた。卒業研究として位置づけられている総合薬学研究1、2、3では、最先端の有機化学研究実験指導を行った。 学位論文作成研究として位置づけられているすべての科目で、最先端の有機化学を理解し、自ら課題設定し、解決していく能力の獲得を目指した。研究内容は、当研究室で展開しているテーマ、「新光延反応」、「不斉分子認識」、「アブラムシ色素」に関係するものである。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Symbiotic Bacterium Modifies Aphid Body Color.	共著	平成22年10月	Science, 330, 1102-1104 (2010)
Total Synthesis of the (+)-Antimycin A Family.	共著	平成23年4月	Eur. J. Org. Chem., 14, 2719-2729 (2011)
Viridaphin A1 Glucoside, a Green Pigment Possessing Cytotoxic and Antibacterial Activity from the Aphid Megoura crassicauda.	共著	平成23年2月	J. Nat. Prod., 74(8), 1812-1816 (2011)
Modified Markó's aerobic oxidation of alcohols under atmospheric pressure with air or molecular oxygen at room temperature.	共著	平成24年10月	Tetrahedron Lett. 53, 5880-5882 (2012)
A Facile Method to Prepare Optically Active Acyclic Ketones by Thermodynamically Controlled Deracemization.	共著	平成25年12月	Eur. J. Org. Chem, 2013, 8208-8213
III 学会等および社会における主な活動			

平成22年4月～平成26年3月	日本プロセス化学会東四国フォーラム
平成22年4月～平成26年4月	天然有機化合物討論会 世話人
平成23年4月～平成26年3月	有機合成化学協会中国四国支部 幹事
平成24年4月～平成25年3月	有機合成化学協会 代議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品分析学教室	職名 教授	氏名 通 元夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年3月 平成24年3月 平成25年4月	「薬学分析科学の最前線」(じほう)(共著) パートナー「分析化学II」改訂第2版(南江堂)(共著) マクマリー「有機化学」(上・中・下)翻訳第8版(共訳)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年8月	日本学術振興会「ひらめき・ときめきサイエンス」で「かぜ薬を分析してみよう。クロマトグラフィーと質量分析ってなんだろう」を主催
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
(論文) Biogenetic-like Cyclization of Denudatenone A to Dolabellane-Type Diterpenoids Induced by Samarium(II) iodide. A Ketyl-Olefin Radical Coupling Reaction Forming 5-Membered Carbocycles		共著	平成21年2月
(総説) Construction of eight-membered carbocycles with trisubstituted double bonds using the ring closing metathesis reaction		共著	平成22年6月
(論文) First direct evidence of radical intermediates in samarium diiodide induced cyclization by ESR spectra		共著	平成23年11月
(総説) Diversity of furanoeremophilanes in major Ligularia species in the Hengduan Mountains		共著	平成24年4月
(論文) Four new compounds from Ligularia virgaurea; isolation of eremophilane and noreremophilane sesquiterpenoids and the absolute configuration of 2 α -hydroxyeremophil-11-en-9-one by the CD spectrum and DFT calculation		共著	平成25年9月
III 学会等および社会における主な活動			
平成11年4月～	国際雑誌Molecules, Regional Editor		
平成17年4月～	国際雑誌Current Chemical Biology編集委員		
平成17年4月～	国際雑誌Natural Product Research編集委員		
平成19年1月～	国際雑誌Phytochemical Analysis編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
徳島文理大学薬学部	生薬学	教授	橋本 敏弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			最近科学的に証明された事柄についてパワーポイントを用いて講義した。週刊誌、新聞記事で話題になったことも多く取り上げ、学生に興味ある内容に工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年2月 平成21年3月	分担：橋本敏弘 「薬学生のための薬用植物学・生薬学テキスト」廣川書店 分担：橋本敏弘 「薬学生のための天然物化学テキスト」廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			1) 製薬会社、ドラッグストア、看護学科と連携した健康セミナーの開催 2) 徳島県薬草協会との共同共催で、薬草展を2回企画・実施 3) 薬食同源に関する市民講演会での講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			愛媛県済美高校との高大連携事業を行い、日本薬学会中四国支部大会の高校生オープン学会で優秀賞を受賞した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Aromatic constituents of Cymbidium Great Flower Marie Laurencin and their antioxidative activity	共著	平成25年1月	Journal of Natural Medicines, 67 (1), 217-221.
Phenanthrene Derivatives from Cymbidium Great Flower Marie Laurencin and Their Biological Activities	共著	平成24年4月	Journal of Natural Products, 75 (4), 605-609.
In vitro antitrypanosomal activity of bis(bibenzyl)s and Bibenzyls from Liverworts against Trypanosoma brucei.	共著	平成23年2月	Journal of Natural Medicines, 66, 377-382.
Anti-influenza activity of marchantins, macrocyclic bisbibenzyls contained in liverworts	共著	平成23年6月	PLoS One, 6, e19825.
Novel phthalide compounds from Sparassis crispa (Hanabiratake), hanabiratakelide A-C, exhibiting anti-cancer related activity	共著	平成22年8月	Biol. Pharm. Bull., 33 (8), 1355-1359.
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～平成26年現在	日本生薬学会中四国地区 評議委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 葛原 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 分子生物学 1 分子生物学 2 バイオテクノロジー論 1 ゲノムと創薬 生化学実習 総合薬学研究 1 総合薬学研究 2 総合薬学研究 3 基礎ゼミナールA 学部内インターシップ (授業評価等を含む) 薬学基礎演習 1		DNAの分子模型を用いて説明した。毎回、小テストを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年 2月 平成21年 3月	薬学領域の生化学 (4刷) 廣川書店 CBT 生化学 廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年 8月	徳島県高等学校教育研究会 理科学会総会・研究大会	
4 その他教育活動上特記すべき事項	平成24年12月 平成25年8月 平成25年3月 毎年	四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革FD委員会 [物理・化学・生物分野] 四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革. 評価委員会C 四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革. 評価委員会C 私立大学薬大協・国家試験問題検討委員会	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Inhibition of monoamine oxidase A and stimulation of behavioural activities in mice by the inactive prodrug form of the anti-influenza agent oseltamivir.	共著	平成25年 5月	Brit. J. Pharmacol. 169.
(論文) Structural basis of the influenza A virus RNA polymerase PB2 RNA-binding domain containing the pathogenicity-determinant lysine 627 residue.	共著	平成21年 1月	J. Biol. Chem. 284.
(論文) Anti-Influenza Activity of Marchantins, Macrocyclic Bisbibenzyls Contained in Liverworts.	共著	平成23年 5月	PLoS ONE 6(5), e19825.
(論文) Anti-influenza activity of C60 fullerene derivatives.	共著	平成25年 6月	PLoS ONE 8(6), e66337.
(論文) Green tea catechin as a chemical chaperone in cancer prevention.	共著	平成20年 1月	Cancer Lett. 261(1).
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年 4月～平成22年12月	日本薬学会理事		
平成15年 4月～平成22年12月	薬学会中国四国支部大学幹事		
平成15年 4月～平成22年12月	薬学会中国四国支部庶務幹事		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 微生物学講座	職名 教授	氏名 永浜 政博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 微生物孢子—制御と対策—		平成23年4月	細菌の芽胞形成菌の性質について、性質や作用を分かりやすく記述した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Vaccines against <i>Clostridium perfringens</i> alpha-toxin	単著	平成25年10月	Curr. Pharm. Biotechnol. Vol. 14, No. 10
(論文) The p38 MAPK and JNK pathways protect host cells against <i>Clostridium perfringens</i> beta-toxin	共著	平成25年10月	Infect. Immun. Vol. 81, No. 10
(論文) Arginine ADP-ribosylation Mechanism Based on Structural Snapshots of Iota-toxin and Actin Complex.	共著	平成25年3月	Proc. Natl. Acad. Sci. USA. Vol. 110, No. 11
(論文) <i>Bacillus cereus</i> sphingomyelinase recognizes ganglioside GM3	共著	平成25年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun. Vol. 431, No. 2
(論文) Development of Vizantin, a safe immunostimulant, based on the structure-activity relationship	共著	平成25年1月	J. Med. Chem. Vol. 56, No. 1
平成5年1月～ 現在まで	日本細菌学会中国四国支部評議員		
平成24年1月～ 現在まで	日本細菌学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 姫野誠一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			3年生対象の栄養生化学、食品衛生学において、毎回の講義の際に、穴埋め式のサブノートプリントを配布し、学習効果を高めた。また、毎回の講義で学生が提出する出席票に、講義のスピード、講義のわかりやすさを学生に5段階評価で評価させて、次回の講義のスピードと深さの修正に役立てた。両科目ともにほぼ毎週学生から復習レポートを提出させ、講義内容が復習できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年12月	「薬剤師国家試験対策参考書 衛生」薬学ゼミナール(編), 薬学ゼミナール, pp. 2-31
		平成24年1月	「スタンダード薬学シリーズ5 健康と環境 第2版」日本薬学会(編), 東京化学同人, pp. 178-186, 190-192
		平成24年8月	「改訂第2版 衛生薬学新論」新井洋由・成松鎮雄・山田英之(編), 南山堂, pp. 430-456
		平成25年3月	「衛生薬学 - 健康と環境」永沼章・姫野誠一郎・平塚明(編), 丸善出版、第5版, pp. 1-128
		平成26年2月	「毒性の科学 - 分子・細胞から人間集団まで」熊谷嘉人・姫野誠一郎・渡辺知保(編), 東京大学出版会, pp. 4-7
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年4月～25年3月	日本薬学会 環境・衛生部会・関連法規情報委員会委員長として、衛生薬学領域における法律や基準改正を日本薬学会のファルマシア誌に定期的に公表してきた。
		平成23年4月～26年3月	日本私立薬科大学協会・薬剤師国家試験問題検討委員会・衛生薬学部会 委員長として、国家試験問題の質の向上に努めてきた。
		平成24年4月～現在	薬学教育協議会・衛生薬学担当教員会議の幹事として、衛生薬学教育の質の向上に努めてきた。
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Increases in oxidized low density lipoprotein and other inflammatory and adhesion molecules with a concomitant decrease in high density lipoprotein in the individuals exposed to arsenic in Bangladesh.	共著	2013年9月	Toxicol. Sci. 135(1), 17-25.
(論文) Roles of ZIP8, ZIP14, and DMT1 in transport of cadmium and manganese in mouse kidney proximal tubule cells.	共著	2012年7月	Metallomics 4(7), 700-708.
(論文) Alternative splicing variants of human arsenic (+3 oxidation state) methyltransferase.	共著	2011年11月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 415(1), 48-53.
(論文) Arsenic biomethylation is obligatory for oxidative DNA damage.	共著	2009年12月	J. Nat. Cancer Inst. 101, 1670-1681.
(論文) The role of ZIP8 down-regulation in cadmium-resistant metallothionein-null cells.	共著	2009年3月	J. Appl. Toxicol. 29(5), 367-373.
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～現在	日本薬学会・金属の関与する生体関連反応シンポジウム・評議員		

平成16年4月～現在	日本微量栄養素研究会・評議員
平成17年4月～平成25年12月	日本毒性学会・編集委員
平成17年4月～現在	日本衛生学会・評議員
平成18年7月～現在	日本毒性学会・評議員
平成19年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会・常任世話人
平成19年4月～平成25年3月	日本薬学会 環境・衛生部会・関連法規情報委員会委員長
平成20年9月～現在	日本免疫毒性学会・評議員
平成20年9月～現在	日本免疫毒性学会・学術編集委員
平成22年4月～平成23年5月	日本薬学会 薬学雑誌 編集委員
平成22年4月～現在	日本私立薬科大学協会・薬剤師国家試験問題検討委員会・衛生薬学部会 幹事
平成22年4月～平成24年3月	徳島県・食品衛生監視指導計画策定懇話会委員
平成22年5月	第9回セレンの生物学・医学に関する国際シンポジウム 国際実行委員
平成22年6月	日本薬学会 第20回金属の関与する生体関連反応シンポジウム実行委員長
平成22年10月～現在	日本免疫毒性学会・理事
平成22年10月	第60回藤原セミナー「Zinc Signaling and Cellular Functions」国内実行委員
平成22年11月	第2回メタロミクス研究フォーラム実行委員
平成23年1月～現在	日本衛生学会・編集委員
平成23年4月～現在	日本私立薬科大学協会・薬剤師国家試験問題検討委員会・衛生薬学部会 委員長
平成23年6月～平成25年3月	日本薬学会 学術誌編集委員
平成23年9月	第5回Metals and Genetics国際シンポジウム 国内実行委員
平成23年10月～現在	日本学術会議 連携会員
平成23年11月～現在	日本ヒ素研究会理事
平成24年1月～現在	日本毒性学会・生涯教育委員会委員
平成24年4月～平成25年3月	文部科学省大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員
平成25年11月	第10回国際微量元素学会（ISTERH） 国内実行委員
平成26年1月～現在	日本毒性学会 理事

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 公衆衛生	職名 鈴木	氏名 鈴木 真也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月～ 平成26年3月	講義ビデオを録画し、学生が復習等に利用できるよう薬学web site上で閲覧可能な状態にしてある。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年4月	衛生薬学 健康と環境 丸善出版 (共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年9月22日	第2回専門分野別FD研修会
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
Modulated responses to restraint stress and inflammation in metallothionein-null mice		共著	2009年
Enhanced metallothionein gene expression induced by mitochondrial oxidative stress is reduced in phospholipid hydroperoxide glutathione peroxidase-overexpressed cells.		共著	2010年
Development of high-fat diet-induced obesity in female metallothionein-null mice		共著	2010年
Differential effects of cobalt and mercury on lipid metabolism in the white adipose tissue of high-fat diet-induced obesity mice		共著	2012年
Cadmium modulates adipocyte functions in metallothionein-null mice.		共著	2013年
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
J. Health Sci. 55, 554-559.			
Eur J Pharmacol. 626, 166-170			
Faseb. J. 24, 2375-84			
Toxicol Appl. Pharmacol. 258, 32-42			
Toxicol Appl. Pharmacol. 272, 625 - 636			
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～平成23年3月	薬学会ファルマシア トピックス小委員		
平成22年4月～平成26年3月	薬学教育協議会教科検討委員会(衛生化学、公衆衛生学)		
平成22年4月～平成26年3月	私立薬大協・衛生系国家試験問題検討委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	徳島文理大学	講座名	薬理学教室
職名	教授	氏名	赤木 正明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	1 教科書の要点を纏めたプリントを作成した。 2 講義内容に関する整理問題を各講義について約100問作成し、講義した内容に関連した問題を次の週の講義時間にレポートとして提出するように促した。整理問題の解答例は講義の最終日に印刷して学生に配布し、期末試験対策勉強に使用させた。 3 講義内容の説明に必要な解剖図等は、パワーポイントで作成したスライドとして使用した。 4 講義はすべてビデオ撮影を行い、保存した。
2	作成した教科書、教材、参考書	毎年	1 各講義の講義参考プリント 2 薬理学実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年12月26日	「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」専門分野別FD研修会(薬理系部会)に出席
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
Human cathelicidin CAP18/LL-37 changes mast cell function toward innate immunity.		共著	平成20年1月
Pilosulin 5, a novel histamine-releasing peptide of the Australian ant, <i>Myrmecia pilosula</i> (Jack Jumper Ant).		共著	平成20年8月
Mast cells modulate interleukin-4 production independently of interferon-gamma generation by invariant killer T cells through the suppression of Notch signaling.		共著	平成23年2月
Phenylbutenoid dimers isolated from Zingiber purpureum exert neurotrophic effects on cultured neurons and enhanced hippocampal neurogenesis in olfactory bulbectomized mice.		共著	平成24年1月
Generation of mast cells from mouse fetus: Analysis of differentiation and functionality, and transcriptome profiling using next generation sequencer.		共著	平成25年4月
発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称			
		Biol. Pharma. Bull. 31, 212-216	
		Archiv. Biochem. Biophys. 477, 411-416	
		J. Health Sci. 57, 197-203	
		Neurosci. Lett. 513, 72-77	
		PLoS ONE 8 (4) E60837	
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年度	日本ヒスタミン学会当番幹事		
平成22年度	日本薬学会中国四国支部支部長		
平成23年度	私立薬科大学協会教務部長会委員長		
平成25年度	薬学教育評価機構外部評価委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	座名 薬剤学	職名 教授	氏名 櫻井栄一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成21年4月1日～現在	<p>教育の内容：薬物動態学1（3年次担当、半期、1単位）、薬物動態学2（4年次担当、半期、1単位）、薬物動態学演習（4年次担当、半期、1単位）、日本薬局方（4年次担当、半期、1単位）において実践。</p> <p>方法の工夫：著書欄に記した本（教科書として採用）と独自にまとめた問題集を中心に授業した。問題集は、特に、予習をし易いように工夫したもので、授業の進行に合わせ、授業の前週に問題集から課題を与えた。また、教科書を読む癖をつけさせるために、授業中に一部の学生にマイクを使って教科書を丁寧に読ませ、どの箇所又はどのような専門的語句が理解できなかったかをチェックした。その後、読んだ内容について最新の情報を加え、詳しく説明した。また、薬物動態学では計算問題が多いため、計算問題を解きながらファーマコキネティック・マップを作成させた。問題を解くときに最初にどこから式の展開をしたらよいかイメージできるようにした。</p> <p>授業評価：授業に対する熱意、授業の進め方等に対して、「非常に良い」との評価を得た。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月1日～現在	<p>① 著書欄に記載した著書を教科書として使用した。</p> <p>② 薬物動態学～薬剤師国家試験問題集（81回～96回）～を項目ごとに分類し作成した。</p> <p>③ 物理薬剤学・製剤学・日本薬局方～薬剤師国家試験問題集（81回～96回）～を項目ごとに分類し作成した。</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年11月26日	第2回専門分野別FD研修会	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) マッピングナビゲーション「薬物速度論演習」	単著	平成23年3月	京都廣川書店
(著書) NEWパワーブック生物薬剤学 改訂第2版	共著	平成23年2月	廣川書店
(訳書) ラング・デール 薬理学	共著	平成23年7月	西村書店
(論文) Enhancing effect of zinc on L-histidine transport in rat lung microvascular endothelial cells	共著	平成23年8月	Biological Trace Element Research vol.142 No.3
(論文) Flavin-containing monooxygenase (FMO) protein expression and its activity in rat brain microvascular endothelial cells	共著	平成25年1月	Pharmacology & Pharmacy vol.4 No.1
III 学会等および社会における主な活動			
平成3年4月～現在	日本薬理学会評議員		
平成9年8月～現在	活性アミンに関するワークショップ世話人及び事務局長		
平成20年1月～現在	日本薬物動態学会評議員		

平成24年10月～現在	日本ヒスタミン学会幹事
平成25年2月～現在	日本薬学会代議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 機能形態学	職名 教授	氏名 瀬津弘順
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1. 平成20年4月～平成21年3月 2. 平成20年4月～平成26年3月 3. 4. 平成20年4月～平成26年3月	1. 医療介護福祉実習：医療人として自覚を高める事を目的とする実習。医療福祉に関する施設（老人ホーム、デイサービスセンター、身体障害者療護施設、知的障害者施設）でボランティアとして活動する。 2. 病理学実習：人体病理組織標本の観察、臓器の構造、機能や疾患の病態生理を理解する。顕微鏡、ディスカッション顕微鏡から病理組織標本の説明を通して、病態生理の理解を深める。 3. 総合薬学教育研究1, 2, 3：卒業研究の一環として機能形態学や病態生理学に関する研究実験を行う、実験手技の実習、定期的に論文の閲覧、研究セミナーを通し問題解決能力やプレゼンテーション能力を高める。 4. 病態生理学1, 2：疾患の臨床病理学（肉眼、組織解剖とその生理機能）を学ばせる。人体病理解剖から得る肉眼写真（スライド）やビデオを教材にし理解を深めさせる。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年4月7日～平成25年7月13日	病理学実習書（学部3年生対応の実習書。実験概要および手技、記録、結果、質問形式の問題に対する考察の記入式。）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年4月～平成26年3月	薬学教育協議会教科検討委員会の病態検査を担当。
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
Ultrastructural and histopathological analysis of initial change and myoglobin absorption on proximal tubule injury with glycerol-induced rhabdomyolysis in rats.		共著	平成21年12月
Cadmium reduces adipocyte size and expression levels of adiponectin and Peg1/Mest in adipose tissue.		共著	平成22年10月
Localization and characterization of lymphatic vessels in oral and cervical squamous cell carcinoma		共著	平成23年9月
Differential effects of cobalt and mercury on lipid metabolism in the white adipose tissue of high-fat diet-induced obesity mice.		共著	平成24年1月
Development of vizantin, a safe immunostimulant, based on the structure-activity relationship of trehalose-6, 6'-dicorynomycolate.		共著	平成25年1月
J Med Chem. Jan 10;56(1):381-5.			
III 学会等および社会における主な活動			
昭和62年4月～平成22年3月	日本病理学会学術評議員		
平成10年4月～平成26年3月	日本硬組織再生生物学会理事		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学科	職名 教授	氏名 松永洋一
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			OSCEにおける患者対応の責任者として学生の実務教育
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Vitamin D2 interacts with human PrPc(90-231) and breaks PrPc oligomerization in vitro	共著	2013年7月	PRION. (vol. 7. 1-7)
L-tryptophan suppresses rise in blood glucose and preserves insulin secretion in type-2 diabetes mellitus rats	共著	2012年5月	J. Nutr. Sci. Vitaminol. (vol. 58. 415-422)
Environmental factors preceding Aβ40 monomer to oligomers and the detection of oligomers in Alzheimer's disease patient serum	共著	2011年8月	Hindawi Publishing group, J. AminoAcid. (vol. 2012, article ID 206520)
Effects of 8-residues β sheet breaker peptides on aged Ab-induced memory impairment and 40 expression in rat brain and serum following intraamygdaloid injection	共著	2010年11月	Bentham Sciences, Curr. Alz. Res. (vol. 7, 602-614)
Reversal of temperature-induced conformational changes in the amyloid-beta peptide, Aβ40, by the β-sheet breaker peptides 16-23 and 17-24	共著	2009年5月	British Pharmacological Society, Br. J. Pharmacol. (vol. 158, 1165-1172)
III 学会等および社会における主な活動			
2010年4月～現在	Expert Advisor board member (Neural Regeneration Research)		
2011年6月～現在	Advisory board (Turkish Journal of Medical Sciences)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 庄野文章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月～	医療の担い手としての心構えについて 抗悪性腫瘍薬に関する基本的知識 医療現場にでる前の基本的な実習教育 国家試験対策として医療実務を担当 薬剤師として医薬品の安全かつ適切な使用
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年4月～	実務実習事前学習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年4月～	実務実習担当(病院・薬局に対する受け入れ依頼)中国四国調整機構および近畿地区調整機構委員 4年後期よりアンケートを実施し、学生各人と面談、学生の希望に副えるように、各地区調整機構へ斡旋依頼。 実務実習期間中はそれぞれの施設への訪問やクレーム等の処理を行う。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Sustained expression of lipocalin-type prostaglandin D synthase in the antisense direction positively regulates adipogenesis in cloned cultured preadipocytes (査読付き論文)	共著	平成23年	Biochemical and Biophysical Research Communications
Generation of Monoclonal Antibody for 15-deoxy- Δ 12,14-Prostaglandin J2 and Development of Enzyme-Linked Immunosorbent Assay for Its Quantification in Culture Medium of Adipocytes (査読付き論文)	共著	平成23年	Appl Biochem Biotechnol
Stable expression of lipocalin-type prostaglandin D synthase in cultured preadipocytes impairs adipogenesis program independently of endogenous prostanoids (査読付き論文)	共著	平成24年	Experimental Cell Research
Endogenous synthesis of prostacyclin was positively regulated during the maturation phase of cultured adipocytes (査読付き論文)	共著	平成24年	Cytotechnology
先発医薬品と後発医薬品の剤形類似性の検討(査読付き論文)	共著	平成24年	医療薬学
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～	徳島県病院薬剤師会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 市川 勤
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20～25年度	授業評価に基づき、板書予定の内容をプリントにして配布、講義に集中させた。講義内容の問題を作成し、問題を学生に解かせて解説する演習を導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書 緊急治療を要する疾患の病態生理と薬物治療 医薬品情報学 基礎から臨床へ		平成22年4月30日 平成24年3月31日	アドバンスにおける救急医療や緊急治療を要する疾患別の病態生理、薬物治療、重篤な有害作用・副作用への対応に関する知識・技能の習得に有用。患者症例を詳説し、臨床的な捉え方について執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 徳島文理大学看護学科設立1周年設立記念講演		平成21年6月20日	チーム医療における薬剤師の果たす役割と貢献について講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年度 平成24年12月26日	平成25年度、学内薬剤師国家試験対策委員長として、6年生の薬剤師国家試験対策を指揮。膨大な勉強方法を改善し、効率よく知識を理解できる教育方法を模索し、試行した。 「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」専門分野別FD研修会（病態・薬物治療部会）に出席
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(著書) 疾病の成り立ちと薬物療法		共著	平成25年9月13日
			医学評論社
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年4月～平成25年12月	高大連携による高校への出張講義(徳島県立の池田、鳴門、城北、徳島北各高校)		
平成22年4月～平成25年12月	私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会 病態・薬物治療部会委員		
平成24年12月～平成25年12月	四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革 病態・薬物治療部会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 中田 素生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			4年生および5年生についてハンセン療養所国立療養所邑久光明園での宿泊研修を行い入所者と交流することで医療と人権について考えさせた。 講義では患者さんに寄り添える薬剤師を育てるために医療現場を学生に伝えることを中心に行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			医薬品添付よおインタビューホームの全文の比較 実務実習事前学習講義資料 調剤薬鑑査の処方箋および調剤過誤医薬品の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
特になし			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年10月～現在	薬局店頭でHbA1c測定を行う「糖尿病診断アクセス革命!徳島」筑波大学医学部と共同研究		
平成22年4月～現在	徳島県薬剤師会小松島支部と学薬連携		
平成21年4月～現在	薬局薬剤師の学会発表支援		
平成21年7月～現在	徳島県後発医薬品適正使用協議会会長		
平成22年4月～現在	徳島県薬物乱用防止指導員		
平成21年4月～現在	徳島県薬剤師会理事		
平成23年9月～現在	日本社会薬学会四国支部幹事		
平成23年9月～現在	日本社会薬学会四国支部幹事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 京谷庄二郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 医薬品情報学演習 I 薬物治療学 6		2009年～ 2009年～	授業内容の理解を助けるため、毎回小テストを行っている。また視覚教材を利用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 医薬品情報学－基礎から臨床へ－（廣川書店） 新編プログラム学習による病態と処方解析（廣川書店）		2012年 2013年	医薬品の情報を学び、さらに学んだ医薬品の情報を臨床現場で如何に活かすか、この点を重点的に解説した。臨床と基礎薬学を架橋する内容であり、実習中の薬学生が病院や薬局で感じた疑問をピックアップし、Q&A形式で問題点をフィードバックするプログラム形式を採用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 徳島文理大学薬学部同窓会（薬友会）支部会にて講演		2011年～現在	同窓会の各支部が主催する講演会で講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 教務委員 卒後教育委員長 第2回専門分野別FD研修会		2009年～2013年 2013年～ 2013年10月27日	教務委員として、教育システムと内容の改善を行った。卒後教育委員長として、卒後教育講座の開催と共に新規企画として「フィジカルアセスメント研修会」を地元薬剤師会と協力して開催した。（徳島県および高知県）
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
医薬品情報学 -	共著	2012年	廣川書店
Immunomodulatory Effect of Eriobotrya japonica seed Extract on Allergic Dermatitis Rats	共著	2010年	Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 56巻
Effect of Eriobotrya japonica seed Extract on oxidative stress in rats with non-alcoholic steatohepatitis.	共著	2010年	Journal of Pharmacy and Pharmacology, 62巻
Ameliorative effects of Eriobotrya japonica seed extract on cellular aging in cultured rat fibroblasts	共著	2011年	Journal of Natural Medicines, 65巻
Eriobotrya japonica seed extract and deep sea water protect against indomethacin-induced gastric mucosal injury in rats	共著	2011年	Journal of Natural Medicines, 65巻
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年12月～	日本医療薬学会指導薬剤師・認定薬剤師		
平成20年 4月～	徳島県病院薬剤師会理事		
平成24年12月～	高知大学医学部臨床教授		
平成25年 4月～	高知大学医学部非常勤講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学・薬物治療学	職名 教授	氏名 山川 和宣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年4月～ 現在	パワーポイント及び配布資料を作成し、スライドでの講義。小テストの実施。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年4月～ 現在	教材は独自に作成した資料で行う
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成23年1月 平成25年3月	徳島市薬剤師会研修会にて「6年制薬学教育の現状」について講演 中学校にて薬物乱用防止の講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年1月	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
徳島赤十字病院における外来化学療法の現状と課題	共著	平成19年	日本病院薬剤師会雑誌 43. 218-920
Methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) 感染症に対するLinezolidの有効性の検討	共著	平成20年	日本病院薬剤師会雑誌 44. 917-920
徳島赤十字病院 I C T の取り組みによる抗菌薬使用量と薬剤費の動向	共著	平成21年	日本環境感染学会誌 24. 365
カルバペネム系抗菌薬の使用状況の変化	共著	平成21年	日本環境感染学会誌 25. 156
薬剤部と栄養課の連携による経腸栄養剤の微生物汚染防止への取り組み	共著	平成21年	日本病院薬剤師会雑誌 45. 369-372
III 学会等および社会における主な活動			
平成11年4月～平成24年3月	徳島県病院薬剤師会副会長		
平成11年4月～平成24年3月	小松島市公害対策委員会委員		
平成11年4月～平成24年3月	小松島市学校薬剤師		
平成11年4月～平成24年3月	徳島県立小松島高校学校薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 生薬研究所	職名 教授	氏名 豊田 正夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年10月1日 平成24年9月20日 平成25年11月5日	2011年から担当する入学前教育の内容・方法について、各年度の入学前教育を検証し問題点を改善するため次年度には改善策を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年9月20日	入学前教育のための「学習到達度表」、「パソコンを利用した関数グラフの学習方法」説明書などを作成した。また、総合科目(情報処理)の講義で使用するChemBioDrawのテキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年12月24日	e-ポートフォリオ実践報告会「薬学部におけるe-ポートフォリオ活用の現状」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年1月18日	FD研修会(SPOD研修)「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」に参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
Pungent Aromatic Compound from New Zealand Liverwort <i>Hymenophyton flabellatum</i>		共著	2009
Novel terpenoids from the New Zealand liverworts <i>Jamesoniella colorata</i> and <i>Bazzania novae-zelandiae</i> .		共著	2010
Novel prenyl bibenzyls from the New Zealand liverwort <i>Marsipidium epiphytum</i> .		共著	2011
コケ類研究の手引き(改訂版)		共著	2012
Activity-guided isolation of cytotoxic bis-bibenzyl constituents from <i>Dumortiera hirsute</i>		共著	2013
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
		Chem. Pharm. Bull., 57(9) 1015-1018	
		Natural Product Communications, 5(7), 999-1003	
		Chem. Pharm. Bull., 59(4), 480-483	
		日本蘚苔類学会	
		J. Oleo Science, Vol. 62 (2013) No. 2 p. 105-108	
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年4月	日本油化学会 Journal of Oleo Science 編集委員		
平成19年2月	日本体育協会 日本スポーツ少年団指導者		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：徳島文理大学	講座名 薬学教育センター	職名：教授	氏名：秋田 昌彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H17/4～現在	パワーポイント、DVDを使用し、各臓器構造、作用、病変を視覚から印象付ける講義を行っている。宿題には予習としてカーソル、復習として課題の提出を行い、気の付いた点はコメントを記入し返却している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年4月	薬剤師国家試験対策参考書 CBT対策参考書 (青本：薬学ゼミナール編集) (校閲)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年9月 平成24年9月	大学生生活への早期適応促進への「教育センター」の試み：徳島文理大学研究紀要, 82, 11-21 課業達成が困難だった学生への「教育センター」の支援：徳島文理大学研究紀要, 84, 1-11	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		徳島文理大学FD研究部会委員、 薬学部授業評価委員	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Ultrastructural and histopathological analysis of initial change and myoglobin	共著	平成21年12月	Journal of Hard Tissue biology, 18(3), 141-148
III 学会等および社会における主な活動			
平成8年9月	日本病理学会評議員		
平成14年9月	日本鉄バイオサイエンス学会世話人(代議員)		
平成20年1月	日本学術会議連携会員		
平成22年3月	徳島鉄代謝研究会世話人		
平成23年9月	第35回日本鉄バイオサイエンス学会学術集会会長		
平成24年7月	「献血のすすめ」オンライン市民講座会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 瀬川 正昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			1年生対象の薬学概論Ⅰにおいて、毎回の講義の際には、プリント資料を提供し学習効果の向上を図った。また、毎週学生からレポートを提出させることで、講義内容の復習効果ならびに講義の理解度を把握して、以後の講義に活かすようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			地域医療と薬学教育について～徳島文理大学薬学部の特色ある地域医療教育への取り組み～, 岩手医科大学(盛岡), 2013. 2. 15.
4 その他教育活動上特記すべき事項			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
地域医療再生へ薬剤師たちの活動		単著	2011年11月
自立と支援・支え合いの福祉社会に向けて		単著	2012年3月
在宅における癌疼痛の緩和ケア		単著	2012年9月
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～平成22年3月	板野町・藍住町・上板町介護認定審査会 審査委員		
平成18年4月～平成20年3月	徳島県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画策定委員会 策定委員		
平成22年4月～現在	徳島県国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員会 審査委員		
平成25年10月～現在	平成25年度厚生労働省科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する計画」研究協力者		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬学教育センター	職名 教授	氏名 三尾直樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成20年4月～ 平成22年4月～	<p>薬剤師国家試験対策委員長を平成2～22年度の長きにわたりほぼ一貫して務め、この世界の全容を漏らさず知り尽くし、その間本学薬学部に入學してきた学生が最大の目的である薬剤師の資格を学部卒業時に確実に取得できるよう4年生後期の短期間に集中的に勉強するシステムを構築、実践してきた。その結果、本学薬学部の薬剤師国家試験新卒合格率はおおむね9割以上で、全国の国公立薬科大学を通じてトップクラスであった。新しい薬学教育6年制下の平成23～24年度、顧問格の委員としてこれまでの経験を生かし、対策が順調に進むよう、種々アドバイスをしている。</p> <p>平成22年度新設の薬学教育センターで、6年制で入学してきた新入生などに対し、4年制に比べ高度になった学習内容についてこられるよう、専門外の分野も含め課題の解説、少人数形式の演習、補習、試験直後の解説講義、個別指導、質問への対応などの種々の教育を行い、留年発生を減少させた。またそれでも2、3年時に留年した学生に対して本人の理解度に応じた個別指導を行い、再留年の防止に努めて、23年度末の進級率を向上させた。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書		下のII研究活動参照	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		「大学生生活への早期適応促進への教育センターの試み ―基礎学力アップと定期試験への対応導入―」徳島文理大学研究紀要 第82号 11-21頁（平成23年）	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年12月26日	「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」専門分野別FD研修会（物理・化学・生物系部会）に出席	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）スタンダード薬学シリーズ9「薬学と社会」第3版 第3章（管理薬）	共著	平成22年9月	東京化学同人
（著書）ベーシック薬学教科書シリーズ20「薬剤学」第2版 第4章（代表的な製剤）	共著	平成24年10月	化学同人
III 学会等および社会における主な活動			
第95回薬剤師国家試験問題を審議する平成22年の私立薬大協薬剤師国試問題検討委員会基礎薬学部会委員長を務め、本学で委員会を開催してそこで集まった意見を集約し厚生労働省に文書で伝え、また厚生労働省での会議で口頭でも発表して、6年制薬剤師国家試験に反映されるようにした。			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬化学	職名 准教授	氏名 長島 史裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成19年9月～ 平成20年4月～ 平成22年11月～	2年生薬化学実習において有機系4研究室の合同で相互実習の運営 1年生化学計算問題作成および補講 4年共用試験OSCE試験の直前教育
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年9月～ 平成20年4月～	4研究室合同の有機系実習の実習書作製 1年生化学計算補講および試験問題の作製
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年9月	薬学教育センターとの共同で「定期試験合格率向上をめざした支援法の解析」について大学紀要の誌上で発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年11月～	薬学共用試験OSCE実施における学外評価者および標準模擬患者養成のためタスク
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) Chemical Constituents of Bryophytes: Bio- and Chemical Diversity, Biological Activity, and Chemosystematics.		共著	2013年1月 Springer-Verlag
(著書) 改訂新版・コケ類研究の手引き: 化学分析法		共著	2011年12月 日本蘚苔類学会
(論文) New ent-verticillane diterpenoids from the Japanese liverwort <i>Jackiella javanica</i> .		共著	2008年8月 Chem. Pharm. Bull., 56, No. 8
(論文) Sesqui- and diterpenoids from three New Zealand Liverworts <i>Bazzania novae-zelandiae</i> , <i>Gackstroemia</i> sp. and <i>Dendromastigophora</i> sp.		共著	2010年1月 Nat. Prod. Res., 24, No. 1
(論文) Terpenoids and bibenzyls from three Argentine liverworts.		共著	2011年12月 Molecules, 16, No. 12
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年7月, 22年7月, 25年10月	薬剤師のためのワークショップ中国・四国タスクフォース		
平成22年5月～	徳島文理大学薬友会理事		
平成24年4月～	県薬剤師会スポーツファーマシストプロジェクトチーム		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：徳島文理大学	講座名 薬品分析学	職名：准教授	氏名 宗野 真和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年12月26日	日本薬学会 第1回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ「学習成果基盤型教育に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える」	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年7月3日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成事業「第27回中国四国地区指導薬剤師養成WS in Tokushima」タスクフォースとして指導	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Carbon-carbon bond formation between enone and ester carbonyl group induced by samarium diiodide.	共著	2008年5月	Heterocycles 76(1), 851-860, (2008).
(論文) Biogenetic-like cyclization of denudatenone A to dolabellane-type diterpenoids induced by samarium(II) iodide: a ketyl-olefin radical coupling reaction forming five-membered carbocycles.	共著	2009年3月	Synlett (3), 469-471, (2009)
(論文) First Direct Evidence of Radical Intermediates in Samarium Diiodide-induced Cyclization by ESR Spectra.	共著	2011年10月	Organic Letters 13(21), 5720-5723. (2011)
(論文) Cyclizations Producing Hydrindanones with Two Methyl Groups at the Junction Positions Mediated by Samarium Diiodide and Electrolysis.	共著	2012年9月	molecules 17(9), 11079-11088(2012)
(論文) Samarium(II) iodide-induced intermolecular coupling of α, β -unsaturated esters with ketones: reactions of methyl propiolate and ethyl buta-2,3-dienoate with cyclohexanone and its application to synthesis of a terpene carboxylic acid.	共著	2013年1月	Tetrahedron Letters 54(15), 1947-1950. (2013)
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学・薬物治療学	職名 准教授	氏名 塩原 義則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月～平成25年4月	頻繁に行われる法令改正に対応するため、薬事関係法規の教科書を毎年改訂し、最新の情報を学生に提供している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年3月～平成25年3月	今日の薬事法規・制度 (京都廣川書店)、NEW放射化学・放射薬品学 (廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)
(著書) '10- '11今日の薬事法規・制度		単著	平成22年 4 月
(著書) '11- '12今日の薬事法規・制度		単著	平成23年 3 月
(著書) NEW 放射化学・放射薬品学 第2版		共著	平成23年12月
(著書) '12- '13今日の薬事法規・制度		単著	平成24年 3 月
(著書) '13- '14今日の薬事法規・制度		単著	平成25年 3 月
発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
			京都廣川書店
			京都廣川書店
			廣川書店
			京都廣川書店
			京都廣川書店
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年5月～平成25年5月		日本私立薬科大学協会薬事関係法規教科検討委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 梅山 明美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年後期	薬用植物学では毎講義のはじめにその日の確認テストを渡し講義を集中的に聴き穴埋めしていくように仕向けている。東洋医学概論は毎講義の最後にその日の確認テストを行う。その中にはCBTや国試に出題されそうな問題を盛り込み、(実際に2週続けて行われた模擬試験に確認テストから何題か類似問題が出題された。)学生には講義と確認テストが非常に大切であることをアピールできた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年 平成25年	ポーランドからのポスドクを2名 (Aleksandra Grudniewska, Wirginia Kukula) を受け入れていたので研究室内で英語が飛び交い配属学生に取っては異文化に触れる良いチャンスであり、語学に対する必要性も感じてくれ、教育効果も大きかったと思う。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Takei, M., and Umeyama, A. Cancer Immunotherapy (The possible use of triterpene compounds in DC immunotherapy against cancer)	共著	平成23年 4月	INTECH p.143-154
A. Umeyama, N. Matsuoka, R. Mine, A. Nakata, E. Arimoto, M. Matsui, N. Shoji, S. Arihara, M. Takei, T. Hashimoto, Polyacetylene diols with antiproliferative and driving Th1 polarization effects from the marine sponge Callyspongia sp.	共著	平成22年1月	Journal of Natural Medicine 64(1)巻, 93-97.
T-Y. Jung, T. N. N. Pham, A. Umeyama, N. Shoji, T. Hashimoto, J-J. Lee, M. Takei, Ursolic acid isolated from Uncaria rhynchophylla activates human dendritic cells via TLR2 and/or TLR4 and induces the production of IFN- by CD4+ naive T cells.	共著	平成22年8月	European Journal of Pharmacology 643(2-3)巻, 297-303.
A. Umeyama, Y. Yahisa, M. Okada, E. Okayama, A. Uda, N. Shoji, J-J. Lee, M. Takei, T. Hashimoto, Triterpene esters from Uncaria rhynchophylla drive potent IL-12-dependent Th1 polarization.	共著	平成22年8月	Journal of Natural Medicine 64(4)巻, 506-509.
Akemi Umeyama, Koichi Takahashi, Aleksandra Grudniewska, Mina Shimizu, Sayaka Hayashi, Masayuki Kato, Yasuko Okamoto, Midori Suenaga, Sayaka Ban, Toshio Kumada, Aki Ishiyama, Masato Iwatsuki, Kazuhiko Otaguro, Satoshi Omura and Toshihiro Hashimoto. In vitro antitrypanosomal activity of the cyclodepsipeptides, cardinalisamides A-C, from the insect pathogenic fungus Cordyceps cardinalis NBRC 103832	共著	平成25年10月 (web公開)	The Journal of Antibiotics Vol.67 No.2.

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2010年	Tetrahedron 審査員
2012年4月～2013年3月	集落再生プロジェクト（シカ対策；木沢ミツマタ栽培）
2011年、2012年、2013年	Chem. Pharm. Bull. 審査員
2012年度, 2013年度	日本薬剤師研修センター生薬・漢方研修会薬用植物園実習研修講師および認定試験試験官
2013年4月～	徳島和漢薬研究会副会長
2013年	Journal of Natural product 審査員
2013年4月～2014年3月	日本薬剤師研修センター生薬・漢方認定薬剤師研修会の徳島会場責任者

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 衛生化学	職名 准教授	氏名 角 大悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年2月7日現在	徳島文理大学薬学部の准教授として担当の「毒性学」「環境衛生学」(共通科目、4年次配当、前半期、必修1単位)において、学生からみた授業のあり方などを考慮し進めたところ、学生アンケートの結果から、満足度が高いことがわかった。また、「糖尿病総合講義」(5年次配当、後半期、選択1単位)においては、プリントを作成し、質の高い教育を供することができたと考える。また、6年生の国家試験対策講義において衛生薬学領域の講義を行い、各講義後に復習の問題を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成26年2月7日現在	徳島文理大学薬学部の准教授として担当の「毒性学」、「環境衛生学」(共通科目、4年次配当、前半期、必修1単位)において、教科書では足りない知識を補助教材にて充填するとともに、また授業内容に相当する国家試験の過去問などを用いることで、授業の理解度および達成度を高めることが出来たと考える。また、「糖尿病総合講義」(5年次配当、後半期、選択1単位)においては、プリントを作成し、質の高い教育を供することができたと考える。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Signal transduction pathways and transcription factors triggered by arsenic trioxide	共著	平成21年5月	Toxicology and Applied Pharmacology (244巻、pp. 385-392)
Rat H9c2 cardiac myocytes are sensitive to arsenite due to a modest activation of transcription factor Nrf2	共著	平成22年12月	Archives of Toxicology (85巻、pp. 1509-1516)
Alternative splicing of human arsenic (+3 oxidation state) methyltransferase	共著	平成22年11月	Biochem. Biophys. Res. Commun (415巻、pp. 48-53)
Role of Arsenic (+3 oxidation state) methyltransferase in arsenic metabolism and toxicity	共著	平成23年11月	Biological Pharmaceutical Bulletin (35巻、pp. 1870-1875)
Arsenite retards the cardiac differentiation of rat cardiac myoblast H9c2 cells.	共著	平成24年6月	Biochem. Biophys. Res. Commun (436巻、pp. 175-179)
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年10月～平成24年3月	日本薬学会環境衛生部会若手研究者交流促進委員会委員		
平成22年1月～平成25年3月	日本トキシコロジー学会編集委員会審査委員		
平成24年4月～平成25年3月	日本薬学会環境衛生部会国際交流小委員会委員		
平成24年6月～平成25年3月	日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員		
平成25年4月～平成26年3月	日本薬学会学術誌編集委員(平成25年4月1日～平成26年3月31日)		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：徳島文理大学	講座名 薬理学教室	職名：准教授	氏名：福石 信之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成20年4月1日から平成22年3月31日まで 平成22年4月1日から現在まで	助教着任以降、中枢神経系薬物、循環系に作用する薬物、免疫系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物、代謝疾患治療薬、悪性腫瘍薬に関する薬理学の講義を担当していた。難易度の高い内容については、理解を深めるためにインターネットおよび学内LAN (http://www.yakuzemi-el.com/yakasprv/ および http://10.1.72.2/~fukuishi/kougi.html) を利用して自身の作成した教材を公開し、e-learningを使用して学生の修学環境を構築した。 循環器治療薬、消化器治療薬、腎臓に作用する薬物、代謝疾患治療薬、呼吸器系作用薬、抗炎症薬に関する講義を担当している。平成21年度まで学内LANで公開していた資料を大幅に改訂し、講義の要点だけでなく講義内容全般にわたる資料や過去に出題した前後期試験問題並びに前後期再試験問題も公開することとした。また、以前は学内LANからのみアクセス可能であったものを、現在では自宅からでもアクセス可能に改めた (http://p.bunri-u.ac.jp/lab12/kougi/kougi.html)。さらに、講義終了後にインターネットを介して課題を出題し、講義内容の定着を図るよう改善を行っている (http://www.yakuzemi-el.com/yakasprv/)。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年6月1日から毎年改訂	薬理学実習を円滑に行いかつ内容の理解を深めるため、講座独自の実習書を作成し、学生に配布している。	
1) 薬理学実習書	平成20年9月1日から現在まで	教科書内容の理解を深めるために、独自で作成した薬理学2、3および応用生物統計学のための教材を、学内のコンピュータを使って閲覧出来るよう、公開していた (http://10.1.72.2/~fukuishi/kougi.html)。平成22年度以降は自宅からでもアクセス出来るように改善した。 (http://p.bunri-u.ac.jp/lab12/kougi/kougi.html)。	
2) 薬理学ホームページによる講義ノートと定期試験問題の公開	平成25年	平成25年にパブー (http://p.booklog.jp) から電子書籍「要点シリーズ 薬物治療学」を計7冊出版している。	
3) 電子書籍の出版		該当事項なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年12月26日 平成25年11月27日	「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」専門分野別FD研修会（薬理系部会）に出席 SGDIによる薬理学の教育を実践している。 第2回専門分野別FD研修会	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称

(論文) Generation of mast cells from mouse fetus: analysis of differentiation and functionality, and transcriptome profiling using next generation sequencer.	共著	平成25年4月	PLoS One. 2013;8(4):e60837. doi: 10.1371/journal.pone.0060837. Epub 2013 Apr 3.
(論文) Phenylbutenoid dimers isolated from Zingiber purpureum exert neurotrophic effects on cultured neurons and enhance hippocampal neurogenesis in olfactory bulbectomized mice.	共著	平成24年3月	Neurosci Lett. 2012 Mar 28;513(1):72-7
(論文) Mast cells regulate IL-4 production independently of IFN- γ generation by iNKT cells through suppression of Notch signaling.	共著	平成23年4月	Journal of Health Science. 2011. 57(2): 197-203
(論文) Human mast cells synthesize and release angiogenin, a member of the ribonuclease A (RNase A) superfamily.	共著	平成21年11月	J Leukoc Biol. 2009 Nov;86(5):1217-26.
(論文) Lipoteichoic acid downregulates FcepsilonRI expression on human mast cells through Toll-like receptor 2.	共著	平成19年8月	J Allergy Clin Immunol. 2007 Aug;120:452-461
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
昭和63年4月～現在まで	日本薬理学会会員		
昭和63年4月～平成20年3月	日本トキシコロジー学会会員		
平成7年4月～現在まで	日本ダウン症協会徳島支部会員		
平成8年4月～現在まで	日本アレルギー学会会員		
平成8年4月～現在まで	日本薬学会会員		
平成12年4月～現在まで	日本薬理学会評議員		
平成14年4月～現在まで	American Academy of Allergy Asthma & Immunology会員		
平成17年4月～平成19年3月	日本薬理学会評議員		
平成17年9月～現在まで	ファルマシアトピックス編集小委員会委員 (平成19年まで)		
平成18年2月～現在まで	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 機能形態学	職名 准教授	氏名 井上 正久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月～平成26年3月	人体構造学：1年前期 人体の基本構造を理解するために、各器官系の構造と機能に関する基本的知識について講義を行う。 応用細胞生物学2：5年前期 生体の情報伝達物質の機構に関する基本的知識、さらに各種疾患や薬物治療との関係などに関する知識を修得することを目的とする。 応用生物学A：1年前期 薬学を学ぶ上で必要な生命科学の基礎知識について学習する。 生物系総合演習：生化学、機能形態学、薬理学、病態治療学などの講義を通じてそれぞれの知識の連携を図り、薬物使用の際に必須な知識を深め、実践的知識として定着させる。 総合薬学教育研究1,2,3：4年前期～6年前期 卒業研究の一環として機能形態学や病態生理学に関する研究実験を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年4月～平成25年7月	病理学実習書（学部3年生対応の実習書。実験概要および手技、記録、結果、質問形式の問題に対する考察の記入式。）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成20年12月8日	「薬学教育における高校「生物基礎」新課程」第129会徳島生物学会 徳島
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24～26年 平成25年11月20日	薬剤師国家試験問題検討委員会 病態薬物治療部会 四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革 専門分野別FD研修会
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Localization and characterization of lymphatic vessels in oral and cervical squamous cell carcinoma	共著	平成23年9月	Exp Ther Med. 2(5), 793-797,
Ultrastructural and histopathological analysis of initial change and myoglobin absorption on proximal tubule injury with glycerol-induced rhabdomyolysis in rats.	共著	平成21年12月	Journal of Hard Tissue biology 18/3, 141-147, 2009 Dec.
Development of vizantin, a safe immunostimulant, based on the structure-activity relationship of trehalose-6,6'-dicorynomycolate.	共著	平成25年1月	J Med Chem. Jan 10;56(1):381-5.
Concise synthesis of a probe molecule enabling analysis and imaging of vizantin.	共著	平成25年1月	Chem Pharm Bull. 61(4):452-9
Cadmium modulates adipocyte functions in metallothionein-null mice.	共著	平成25年11月	oxicol Appl Pharmacol. 1;272(3):625-36.
III 学会等および社会における主な活動			
昭和20年4月～平成26年3月	日本硬組織再生生物学会編集委員		
平成24年4月～平成26年3月	徳島生物学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	徳島文理大学	講座名	医療薬学・薬物治療学
職名	准教授	氏名	石田志朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬学共用試験OSCE 模擬患者によるコミュニケーション教育		平成20年～現在 平成21年～現在	薬学共用試験OSCEの実施に際して、標準模擬患者および評価者の養成を行い、OSCE実施計画の作成から運営までを担当。本学にて養成した模擬患者による患者対応・服薬指導のコミュニケーション教育を担当
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学共用試験OSCE、評価者養成講習会用DVD（水剤） 簡易懸濁法Q&A Part2-実践編 医薬品情報学～基礎から臨床まで～		平成20年3月 平成21年10月 平成24年3月	薬学共用試験OSCEの教材から薬剤師業務に関連する簡易懸濁法や医薬品情報に関する書籍を執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学共用試験OSCEフルトライアル実施で得られたSP教育の重要性—社会に向けて—、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 実務実習事前学習へのSP教育の導入に関する考察、日本薬学会129年会 徳島文理大学における薬学共用試験OSCEの標準模擬患者養成		平成20年1月 平成21年3月 平成21年3月	OSCEおよびコミュニケーション教育関連の教育内容を学会で発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬剤師免許 第201317号 日本医療薬学会 認定薬剤師・指導薬剤師 第二回専門分野別FD研修会		昭和57年6月 平成25年1月 平成25年11月20日	薬剤師教育に必須である薬剤師免許および指導薬剤師の資格を修得
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）食品加工へのテクスチャー特性の応用	共著	平成22年6月	食品加工技術、30巻、2号
（論文）Anti-microbial and therapeutic effects of modified Burrow's solution on refractory otorrhea	共著	平成22年10月	Auris Nasus Larynx. Vol. 61
（論文）A comparison of the cellular actions of polaprezinc and ZnCl ₂	共著	同 年10月	Life Sciences Vol. 90
（論文）Pharmacokinetics of ampichillin-sulbactam and the renal function-based optimization of dosing regimens for prophylaxis in patients undergoing cardiovascular surgery	共著	平成23年7月	J. of Infection and Chemotherapy Vol. 88
（論文）Clloquinol-induced changes in the intracellular Zn ²⁺ level in rat thymocytes	共著	同 年7月	Life Sciences Vol. 91
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～現在	簡易懸濁法研究会幹事		
平成25年8月～現在	薬学共用試験センターOSCE実施委員会委員		
平成25年12月～現在	日本病院薬剤師会第6小委員会委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 機器分析センター	職名 准教授	氏名 田中正巳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年4月	課題提出システム(学生に講義課題をWeb経由で提出させ、教員側で一覧表示できるアプリケーションを作成した。)
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年4月	講義テキスト(新システムに対応するために全面的に書き換えた。特に、データベースに関して薬学教育に適するように、医薬品構造式を題材に取り上げた。)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Yellow Pigments, Fomitellanol A and B, and Drimane Sesquiterpenoids, Cryptoporin A and Q, from <i>Fomitella fraxinea</i> and Their Inhibitory Activity against COX and 5-Lipoxygenase	共著	2013年	Molecules, 2013(18), 4181-4191
Xanthouroleuconaphin: a yellowish pigment from the aphid <i>Uroleucon nigrotuberculatum</i> and its total synthesis.	共著	2013年	Tetrahedron, 69, 1808- 1814
Interaction between Drugs and Biomedical Materials. I. Binding Position of Bezafibrate to Human Serum Albumin.	共著	2012年	International Journal of Modern Physics: Conference Series, 6, 751-756
MEGOURAPHIN GLUCOSIDES: TWO YELLOWISH PIGMENTS FROM THE APHID MEGOURA CRASSICAUDA	共著	2012年	HETEROCYCLES, 85(1), 95 - 101
Viridaphin A1 Glucoside, a Green Pigment Possessing Cytotoxic and Antibacterial Activity from the Aphid <i>Megoura crassicauda</i> .	共著	2011年	Journal of Natural Products, 74(8), 1812- 1816
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年9月	第5回日中韓生薬学合同シンポジウム実行委員		
平成22年9月	日本生薬学会第57回年会実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生薬研究所	職名 准教授	氏名 高橋宏暢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Generation of Mast Cells from Mouse Fetus: Analysis of Differentiation and Functionality, and Transcriptome Profiling Using Next Generation Sequencer	共著	平成25年4月	Plos One, 4, e60837.
(論文) Novel inhibitor of bacterial sphingomyelinase, SMY-540, developed based on three-dimensional structure analysis	共著	平成25年3月	J. Enzym. Inhib. Med. Chem., 2013, doi:10.3109/14756366.2013.777717.
(論文) De Novo Sequencing and Transcriptome Analysis of the Central Nervous System of Mollusc Lymnaea stagnalis by Deep RNA Sequencing	共著	平成24年8月	PLoS One, 7, e42546.
(論文) Syntheses of structurally-simplified and fluorescently-labeled neovibsanin derivatives and analysis of their neurite outgrowth activity in PC12 cells.	共著	平成24年3月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 22, 2089-2093.
(論文) Synthesis and evaluation of novel phosphate ester analogs as neutral sphingomyelinase inhibitors.	共著	平成23年3月	Bioorg. & Med. Chem. Lett., 20 (13) 3868-3871
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生薬研究所	職名 准教授	氏名 野路征昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年9月～	授業外における学習を促進する取り組みとして担当の「細胞生物学」(専門科目、1年次後期、1単位)において、講義終了毎にその講義での重要な点を課題に出し、次に日の提出を義務付けた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年9月～	1年生に対して行う生物学実習において、実験動物の取り扱いに慣れていない1年生に解剖の手順を理解してもらうため、マウス解剖方法のビデオ教材作製した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Comparative genomics and reverse genetics analysis reveal indispensable functions of the serine acetyltransferase gene family in Arabidopsis.	共著	平成20年 9 月	Plant Cell, vol 20, 2484-2496
(論文) Disruption of adenosine-5' - phosphosulfate kinase in Arabidopsis reduces levels of sulfated secondary metabolites.	共著	平成21年 3 月	Plant Cell, vol 21, 910-927
(著書) 岩波 生物学辞典 第5版	共著	平成25年 2 月	岩波書店
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品製造学	職名 准教授	氏名 山本 博文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年～	講義と演習を組み合わせることで、知識の定着と理解度の把握を徹底している。また、講義終了時は講義に対する学生アンケートを実施し、次年度の講義進行や内容等の改善材料として役立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年10月～ 平成23年～ 平成25年～	2年次後期有機化学実習機器分析講義教材 6年次後期医療系総合演習講義 物理薬剤学教材 (板書用資料、参考資料、演習問題の作成) 1年次前期無機化学 講義教材 (板書用資料、演習レポート用問題の作成) 6年次後期化学系総合演習講義 基礎化学教材 (板書用資料、演習問題の作成)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年7月3日	無機化学-研究授業 (FD活動)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年11月2, 3日 平成24年12月26日 平成25年2月8日	第3回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加 (FD活動) 文部科学省大学間連携共同教育推進事業「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」第1回FD委員会, 物理・化学・生物分野別担当者会議 文部科学省大学間連携共同教育推進事業「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」第2回FD委員会, 物理・化学・生物分野別担当者会議
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可) 発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Silaphenylmercuric Triflate-Catalyzed Reactions: Synthesis of a Solid Supported Mercuric Salt Catalyst.		共著	平成21年1月 Angewandte Chemie International Edition, 2009, 48, 1244-1247.
Hg(OTf) ₂ -BINAPHANE-Catalyzed Enantioselective Anilino Sulfonamide Allyl Alcohol Cyclization.		共著	平成22年8月 Chemistry: A European Journal, 2010, 16, 11271-11274.
Direct Allylic Amination of Allyl Alcohols with Sulfamates: Effective Utilization of Mercuric Catalyst.		共著	平成23年3月 European Journal of Organic Chemistry, 2011, 2417-2420.
Carbaboranylmercuric Salt-Catalyzed Reaction: Highly Regioselective Cycloisomerization of 1,3-Dienes.		共著	平成24年5月 Organic Letters, 2012, 14, 2266-2269.
Development of Vizantin, a Safe Immunostimulant, based on the Structure-Activity Relationship of Trehalose-6,6' - Dicorynomycolate.		共著	平成25年1月 Journal of Medicinal Chemistry, 2013, 56, 381-385.
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年9月	第24回有機合成化学協会中四国支部若手化学者のための化学道場 師範講演		
平成21年11月～25年9月	生理活性をあまり意図しない自由な天然物合成勉強会 組織委員		
平成22年4月～現在	有機「ものづくり」化学研究会 組織委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 臨床薬学	職名 准教授	氏名 浜田嘉則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			日本薬剤師会・高知県薬剤師会の役員・委員をしていることから、常に最新の情報を配布資料に取り入れ、さらに保険薬局に勤務していることから、現場で役立つ知識や実態を学生に伝えるようにしている。講義のテーマについて知っていることを記載させ、講義後に理解したことについてレポートの提出をさせ理解の程度を把握し、後の講義に反映させている。また「薬害」をテーマにした講義では実際の薬害被害者を読んで当事者から見た薬害についてリアリティーのある講義に取り組んでいる。
2 作成した教科書、教材、参考書			講義のテーマに沿って、その都度パワーポイントを作成している。またipadを使って、最新の医薬品情報の収集や管理、活用を具体的に教えている。 ①医薬分業について②薬剤師を取り巻く法律・制度③医療保険制度④調剤報酬Ⅰ⑤調剤報酬Ⅱ⑥管理に注意を要する医薬品⑦保険薬局における医薬品情報の収集・活用・管理⑧一般用医薬品Ⅰ⑨一般用医薬品Ⅱ⑩一般用医薬品Ⅲ⑪薬害について
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項			「薬学概論Ⅱ」では多岐にわたって臨床に役立つ講義を行っている。OSCEや実務実習の事前学習では実践に役立つ指導を行っている。 保険薬局での研究としては①計数調剤喚起システムや散薬監査システムによる医療安全への取り組み②保険薬局におけるバイタルチェックと受診勧奨③i-padを活用した医薬品情報の収集と服薬支援をテーマに研究し、学会発表や講義に役立っている
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
2004年4月～2008年3月		土佐看護専門学校 薬理学講師	
2009年6月～2011年5月		高知県診療報酬支払基金 調剤専門役	
2011年6月～現在		高知県診療報酬支払基金 調剤審査員	
2011年10月～現在		徳島文理大学薬学部薬学科准教授	

1996年4月～2008年12月	高知東ライオンズクラブ
2002年4月～2011年3月	社団法人 高知県薬剤師会 常務理事
2004年4月～現在	社団法人 日本薬剤師会 医療保険委員
2004年4月～現在	高知市薬剤師会 副会長
2004年4月～現在	高知県薬剤師連盟 幹事長
2009年4月～2012年3月	日本薬剤師連盟 評議員
2009年9月～現在	高知県後発医薬品安全使用促進協議会
2011年2月～現在	高知市医療安全協議会委員
2011年4月～現在	社団法人 高知県薬剤師会 専務理事
2012年4月～現在	日本薬剤師連盟 常任総務
2012年4月～現在	公益法人 日本薬剤師会 年金委員
2013/4/1～現在	日本緩和ケア学会員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品物理化学	職名 講師	氏名 堂上 美和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成25年4月 平成25年6月	物理化学2, 3の講義に学生の理解度を深めるため、講義時間内に演習を組み込んだ。 薬品物理化学実習において、レポートをその日の内に採点し、返却して報告書のまとめ方などを指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年4月 平成25年8月 平成25年9月	物理化学2, 3の演習問題, 薬品物理化学実習の実習書 編入生への講義用プリント 国試対策講義用プリント	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年11月 平成25年11月	平成24年度高校と大学の教育内容接続のための情報交換会参加（理科担当） 四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革第2回「薬剤学FD」	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）A New Spiroindene Pigment from the Medicinal Fungus <i>Phellinus ribis</i> .	共著	平成26年1月	Chem. Pharm. Bull. vol 62, No. 1
（論文）Evaluation of Constituents of Piper retrofractum Fruits on Neurotrophic Activity.	共著	平成25年3月	J. Nat. Prod., vol. 76, No. 4
（論文）Nerve growth factor-potentiating benzofuran derivatives from the medicinal fungus <i>Phellinus ribs</i> .	共著	平成24年12月	J. Nat. Prod., vol. 75, No. 12
（論文）The first examples of seco-prezizaane-type norsecoiterpenoids with neurotrophic activity from <i>Illicium jiadifengpi</i>	共著	平成24年1月	Tetrahedron Lett. vol. 21 No. 3
（論文）Phenylbutenoid dimers isolated from <i>Zingiber purpureum</i> exert neurotrophic effects on cultured neurons and enhance hippocampal neurogenesis in olfactory bulbectomized mice	共著	平成24年2月	Neuroscience Letters, vol. 513, No. 1
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年9月～現在	徳島県都市計画審議会委員		
平成25年5月～現在	徳島県開発審査会委員		
平成25年10月～現在	徳島県建築審査会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品化学	職名 講師	氏名 加来裕人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年, 前後期 毎年, 後期 毎年適宜	学部1年生対象, 早期体験学習, 基礎ゼミナールAとして少人数教育を実践. 学部2年生対象, 有機化学実習でのデジタルビデオカメラ, プラズマテレビの活用 学部3年生対象, 基礎ゼミナールBとしての少人数教育を実践 学部全学年対象, 24号館4階情報処理センター設置のコンピューターを利用した国家試験およびCBT対策指導	
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年適宜 毎年適宜 毎年適宜	研究室配属学部生に対する有機化学及び安全対策に関する資料作成 学部二年生を対象にした有機化学実習の実習書講義に関する資料作成「教科書補助資料等」	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 徳島文理大学における早期体験学習の現状と評価 : 1年次生・施設指導者のアンケート調査を基に	2008年9月	日本医療薬学会年会 (20-P3-532)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2011. 3. 22 2012. 1. 18	「教職員のための大人数講義法入門」受講 「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」受講	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Promotion of Asymmetric Aza-Claisen Rearrangement of N-Allylic Carboxamides Using Excess Base.	共著	2011年11月	Synlett 2011, 20, 2967-2970
Construction of an Asymmetric Quaternary Carbon by Asymmetric Aza-Claisen Rearrangement and its Application to a Total Synthesis of (+)- α -Cuparenone	共著	2012年5月	Tetrahedron; Asymmetry 2012, 23, 739-741
Total Synthesis of Yellowish Aphid Pigment Furanaphin through Fries Rearrangement Assisted with Boron Trifluoride-Acetic Acid Complex	共著	2012年5月	Synlett 2012, 23, 1789-1792.
Modified Marko' s aerobic oxidation of alcohols under atmospheric pressure with air or molecular oxygen at room temperature	共著	2012年10月	Tetrahedron Lett 2012, 53, 5880-5882
A Method to Prepare Optically Active Acyclic α -Benzylketones by Thermodynamically Controlled Deracemization	共著	2013年12月	Eur. J. Org. Chem 2013, 36, 8208-8213
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年10月～現在	天然物化学談話会 世話人		
平成24年8月21日	教員免許状更新講習会「身近な分子の働き -その不思議な世界に触れる-」		
平成24年10月～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム 世話人		
平成25年3月～現在	第12回次世代を担う有機化学シンポジウム (平成26年5月開催) 実行委員 (事務局)		
平成25年8月22日	教員免許状更新講習会「身近な分子の働き -その不思議な世界に触れる-」		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
徳島文理大学	講座名	生化学講座	講師
			島山 大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年9月1日	生化学的現象のイメージをしやすくするため、DVD、動画などの視聴を採用し、1年生の生化学Iでは課題も作成した。また、編入生の補講を担当した際は、補講に使える時間は非常に限られるため、講義内容をコンパクトにまとめたDVDを活用した講義を行った。学生からは好評だった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年9月1日	教科書に指定されている書物だけでなく、より詳しい参考文献もよく検討し、学生の理解の一助になり得る図を用いたプリントを作成した結果、学生からも大変わかりやすい講義だったとの評価をいただいた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Conformational polymorphism of m7GTP in crystal structure of the PB2 middle domain from human influenza A virus.	共著	平成25年11月	PLoS One, 8: e82020.
(論文) Anti-influenza activity of C60 fullerene derivatives.	共著	平成25年6月	PLoS One, 8: e66337.
(論文) Involvement of insulin-like peptide in long-term synaptic plasticity and long-term memory of the pond snail <i>Lymnaea stagnalis</i> .	共著	平成25年1月	Journal of Neuroscience, 33: 371-383
(論文) Inhibition of monoamine oxidase A and stimulation of behavioural activities in mice by the inactive prodrug form of the anti-influenza agent oseltamivir.	共著	平成25年5月	British Journal of Pharmacology, 169: 115-129
(論文) Epigenetic regulation of gene expression in the nervous system.	共著	平成25年7月	Springer社, "Methods in Neuroethological Research" 第10章
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～平成21年9月	第47回日本生物物理学会年会(徳島開催), 学会運営委員		
平成22年4月～平成23年9月	日本生物物理学会, 編集地区委員(中国・四国地区)		
平成24年4月～平成26年4月	日本比較生理生化学会 評議員		
平成24年10月～平成25年5月	中国四国地区生物系三学会合同大会(徳島大会, 2013年5月開催), 準備実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績				
教育および研究活動の業績一覧				
大学名	徳島文理大学	講座名	薬学部生薬研究所	職名 講師 氏名 江角朋之
I 教育活動				
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		(授業評価等を含む)		H20年4月～現在
				1. オリジナルテキストの作成・利用（講義とテキスト内容の一致、授業計画に併せたペース配分可能） 2. 毎回の講義アンケートの実施 3. 講義用ホームページによる情報提供 1) 講義に関するお知らせ 2) コアカリキュラムにおける到達目標の提示 3) 日程表 4) 評価方法（小テストおよび本試験の形式と配点） 5) テキストおよびテキスト内の問題の解答の閲覧およびダウンロード（PDFファイル） 6) 過去問および解答の閲覧およびダウンロード（PDFファイル） 7) 小テストの問題および解答の閲覧およびダウンロード（PDFファイル） 4. 講義毎の小テスト（前回講義の範囲、講義の中頃に実施、出席率の向上、予習・復習の促進、休憩代わりになる。）
2 作成した教科書、教材、参考書				平成20年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成22年4月 平成23年4月 平成24年4月 平成25年4月
				11) 生物有機化学2008年度版 12) 生体分子構造学2008年度版 13) 生物有機化学2009年度版 14) 生体分子構造学2009年度版 15) 生物有機化学2010年度版 16) 生体分子構造学2010年度版 17) 生体分子化学2011年度版 18) 生体分子化学2012年度版 19) 生体分子化学2013年度版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				該当無し
4 その他教育活動上特記すべき事項				該当無し
(FDを含む)				
II 研究活動				
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Total synthesis of riccardin C and (±)-cavicularin via Pd-catalyzed Ar-Ar cross couplings.		共著	平成25年8月	Tetrahedron
A short synthesis of (+)-bakuchiol.		共著	平成25年8月	Synlett.
Identification and purification of resorcinol, an antioxidant specific to Awa-ban (picked and anaerobically fermented) tea.		共著	平成25年8月	Food Research International
Construction of successive chiral center adjacent to chiral tetraalkylated quaternary center using an asymmetric aldol reaction.		共著	平成25年8月	Org. Lett.
Asymmetric synthesis of (-)-chicanine using a highly regioselective intramolecular Mitsunobu reaction and revision of its absolute configuration.		共著	平成23年6月	Tetrahedron Lett.
III 学会等および社会における主な活動				
平成5年4月～現在		日本化学会会員		

平成5年4月～現在	有機合成化学協会会員				
平成8年1月～現在	日本薬学会会員				
[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。					
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。					
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。					
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。					
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
徳島文理大学薬学部	講座名	薬化学	職名 講師 伊藤 卓也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年4月	有機薬化学実習：実習毎にレポートを提出させて、原理、操作法などを理解させた。また、各実習の最後には口頭試問を行い、完全に理解するまで何度も繰り返した。 国家試験対策講義：6年生に対して卒業演習講義を行った。主に、有機化学、医薬品化学、薬剤学を担当。 早期体験学習：当研究室でチューターをしている学生8人にSGDなどして、病院、薬局、企業訪問前の調査をさせた。その後、発表をしてもらった。 物理化学1：毎時間、簡単なテスト形式の宿題を作成し、理解させた。
2 作成した教科書、教材、参考書			有機薬化学実習：共著で実習書を作成 国家試験対策講義：有機化学、医薬品化学、薬剤学をのプリントを作成 物理化学1：毎時間、簡単なテスト形式のプリントを作成し、理解させた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
Biosynthetic study of actinomycetes-metabolites for creating novel analogs, Yakugaku Zasshi.		単著	平成25年9月
Transcriptional Regulation and Increased Production of Asukamycin Engineered Streptomyces nodosus subsp. asukaensis Strains		共著	平成24年10月
Biosynthetic pathway for highly structural diversity of a common dilactone core in antimycin production.		共著	平成24年9月
Porphyrins from a metagenomic library of the marine sponge, Discodermia calyx		共著	平成24年5月
複数酵素の固定化が核酸アナログ創製を切り開く		単著	平成22年10月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
			Yakugaku Zasshi, Vol. 133
			Appl. Microbiol. Eng. Vol. 96
			Org. Lett, Vol. 14
			Molecular BioSystems. Vol. 8
			ファルマシア
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生薬学	職名 講師	氏名 吉川 和子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年7月11日	前期試験の1ヶ月前にポイント集並びに問題集を配布し、前期試験の事前学習を十分行った。適切な教材また視聴覚教材としてパワーポイントによる講義説明は効果的である評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Russujaponols G - L, Illudoid Sesquiterpenes, and Their Neurite Outgrowth Promoting Activity from the Fruit Body of <i>Russula japonica</i>	共著	平成21年3月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin, vol.57, No.3
Novel Phthalide Compounds from <i>Sparassis crispa</i> (Hanabiratake), Hanabiratakelide A-C, Exhibiting Anti-cancer Related Activity	共著	平成22年8月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, vol.33, No.8
Ipomotaosides A - D, Resin Glycosides from the Aerial Parts of <i>Ipomoea batatas</i> and their Inhibitory Activity against COX-1and COX-2	共著	平成22年11月	Journal of Natural Products, vol.73, No.11
Phenanthrene Derivatives from <i>Cymbidium Great Flower Marie Laurencin</i> and Their Biological Activities	共著	平成24年4月	Journal of Natural Products, vol.75, No.4
Yellow Pigments, Fomitellanols A and B, and Drimane Sesquiterpenoids, Cryptoporin Acids P and Q, from <i>Fomitella fraxinea</i> and Their Inhibitory Activity against COX and 5-L0	共著	平成25年4月	Molecules, vol.18, No.4
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 原田 研一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年5月	薬品物理化学実習において、レポートを毎日提出させ、その日の内に採点し、返却して報告書のまとめ方などを指導。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年9月	薬剤師国家試験対策として物理化学分野の国家試験問題10年分をまとめた問題集を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		一年を通して	研究室の学生に対して毎週土曜日午前には有機化学の勉強会をした。また毎週金曜日の夕方から文献紹介のセミナーをおこない、英語の勉強を含め最先端の有機化学の知識を学ばせた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Asymmetric Synthesis of (+)-Machilin F by Unusual Stereoselective Mitsunobu Reaction.		共著	2011年1月
(論文) Asymmetric synthesis of (-)-chicanine using a highly regioselective intramolecular Mitsunobu reaction and revision of its absolute configuration.		共著	2011年3月
(論文) Synthesis of the ABC Ring System of Jiadifenin via Pd-Catalyzed Cyclizations.		共著	2011年6月
(論文) Total synthesis of riccardin C and (±)-cavicularin via Pd-catalyzed Ar-Ar cross couplings.		共著	2013年5月
(論文) Total Synthesis of Bisbibenzyl Dibenzofuran Asterelin A via Intramolecular Oxidative Coupling.		共著	2013年6月
III 学会等および社会における主な活動			
平成 22 年 3 月	日本薬学会第128年会(横浜) ポスター発表, 口頭発表		
平成 22 年 9 月	第24回若手化学者のための化学道場(徳島)、ポスター発表		
平成 22 年 10 月	第52回天然有機化合物討論会(静岡)、ポスター発表		
平成 22 年 11 月	第54回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(山梨)、口頭発表		
平成 22 年 12 月	環太平洋国際化学会議(米国ホノルル市)、ポスター発表		
平成 24 年 11 月	第51回中国四国支部学術大会(島根)、口頭発表		
平成 25 年 3 月	日本薬学会第133年会(横浜) ポスター発表, 口頭発表		
平成 25 年 5 月	第23回日仏医薬精密化学会議(FJS-2013, 長崎) ポスター発表		
平成 25 年 9 月	第55回天然有機化合物討論会(京都) ポスター発表		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品化学	職名 助教	堀川 美津代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		H25年4月～12月	分子モデルを使用した分子構造の講義, マルチメディア機器を利用した実習講義, 少人数教育 (機器分析セミナー, 早期体験学習および基礎ゼミナールなど)
2 作成した教科書、教材、参考書		H25年6月～10月	講義用教材および演習問題, 実習説明用ppt. 実習課題,
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
Uroleuconaphins A2a, A2b, B2a, and B2b: Four yellowish pigments from the aphid Uroleucon nigrotuberculatum (Olive).		共著	2008年6月
Symbiotic Bacterium Modifies Aphid Body Color.		共著	2010年11月
Viridaphin A1 Glucoside, a Green Pigment Possessing Cytotoxic and Antibacterial Activity from the Aphid Megoura crassicauda.		共著	2011年8月
Megouraphin Glucosides: Two Yellowish Pigments from the Aphid Megoura crassicauda.		共著	2012年1月
Xanthouroleuconaphin: a yellowish pigment from the aphid Uroleucon nigrotuberculatum and its total synthesis.		共著	2013年1月
Tetrahedron vol. 64			
Science vol. 330			
Journal of Natural Products vol. 74			
Heterocycles vol. 85			
Tetrahedron vol. 69			
III 学会等および社会における主な活動			
H24年8月	教員免許更新講習会講師		
H25年8月	教員免許更新講習会講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品製造学	職名 助教	氏名 葛西 祐介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of 6-F-ergosterol and its influence on membrane-permeabilization of amphotericin B and Amphidinol 3	共著	平成23年3月	Organic & Biomolecular Chemistry 第9巻第5号
(論文) Total Synthesis of (-)-Polycavernoside A: Suzuki-Miyaura Coupling Approach	共著	平成24年6月	Organic Letters 第14巻第12号
(論文) Total Synthesis of (+)-Davidiin	共著	平成24年8月	Angewandte Chemie, International Edition 第51巻第32号
(論文) Glutathione Ethylester, a Novel Protein Refolding Reagent, Enhances both the Efficiency of Refolding and Correct Disulfide Formation	共著	平成24年8月	The Protein Journal 第31巻第6号
(論文) High Yield Total Synthesis of (-)-Strictinin through Intramolecular Coupling of Gallate	共著	平成25年4月	The Journal of Organic Chemistry 第78号第9巻
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬品分析学	職名 助教	氏名 中島勝幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月～現在	「薬品分析学実習」では、分析技術の習得を目的として基礎的な器具の使い方、数値の取り扱い、分析方法の理解と操作を理解し、実行できるように指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Sesquiterpenoids isolated from <i>Eupatorium glehnii</i> . Isolation of guaiaglenin A, structure revision of hiyodorilactone B, and genetic comparison.	共著	平成20年5月	Chemistry and Pharmaceutical Bulletin, 677-681.
Studies toward the total synthesis of YW3699, a sesterterpenoid GPI biosynthesis inhibitor: preparation of the tri-substituted cyclooctene ring using the RCM reaction.	共著	平成21年5月	Tetrahedron Letters, 2225-2227.
Trisubstituted double bond in the cyclooctene ring. Preparation using the RCM reaction.	共著	平成21年9月	Heterocycles, 2295-2314.
Use of RCM reactions for construction of eight-membered carbocycles and introduction of a hydroxy group at the juncture between five- and eight-membered carbocycles.	共著	平成25年7月	Natural Product Communications, 883-887.
Synthesis of a key intermediate, 10-acetyl-7-(<i>t</i> -butyldiphenylsilyloxymethyl)-4-methylbicyclo[5.3.0]dec-4-en-1-ol, in the synthesis of pseudolaric acid A.	共著	平成25年7月	Natural Product Communications, 877-881.
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
徳島文理大学	薬学部	生化学	助教 庄司 正樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月 ～現在	生化学実習(3年次、必修科目)及び選択科目(ゲノムと創薬)(5年次、選択科目)、薬剤師国家試験対策講義(6年次、必須科目)の講義にて実践した。講義内容は、学生に分かり易いようにあらかじめパワーポイントを使用してスライドに纏めて作成し、これをプロジェクターで映して講義した。また、学生が聞き逃した場合や復習し易いように、講義を始める前にスライド内容をプリントアウトした物を配布した。すべての講義の終了後、学生にアンケートを行ったところ、とても分かり易いや復習し易い等の評価を頂いた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月 ～現在	生化学実習(3年次、必修科目)及び選択科目(ゲノムと創薬)(5年次、選択科目)講義において、実験・実習指導用マニュアルと講義スライドは、実験原理及び手順を手元に置きながら実習を行えるように、また講義の予習復習や理解を深められるようにそれぞれ作成し使用した。ビデオ教材は、実験実習の待ち時間に流して実験原理の理解を深められるように使用した。学生アンケートでは、分かり易く、学生の実験原理解や今まで知らなかった学術面での新発見に繋がったという評価を頂いた。次に、薬剤師国家試験対策講義(6年次、必須科目)では、主に講義スライドを作成した。講義スライドは、プロジェクターに映すスライドと学生に配布するスライドの2種類作成し、学生配布用はプロジェクターに映すスライドの穴あけにして書き込めるようにした。このように、講義を目で見ながら聞きながら穴あけを埋める手作業を行うことで、講義中に理解を深められるようにした。これにより、学生アンケートでは、分かり易く、講義中に理解でき、さらに復習しやすい等の評価を頂いた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年4月 ～現在	特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年4月 ～現在	特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Immunogenic Comparison of Chimeric Adenovirus 5/35 Vector Carrying Optimized Human Immunodeficiency Virus Clade C Genes and Various Promoters.	共著 (first author)	平成24年1月	PLoS ONE (2012) 7(1): e30302.
Type-I IFN signaling is required for the induction of antigen-specific CD8+ T cell responses by adenovirus vector vaccine in the gut-mucosa.	共著 (first author)	平成24年8月	Biochemical and Biophysical Research Communications (2012) 425 (1) 89-93.

Intramuscular DNA immunization with in vivo electroporation induces antigen-specific cellular and humoral immune responses in both systemic and gut-mucosal compartments.	共著 (first author)	平成24年11月	Vaccine (2012) 30 (50) 7278-7285.
Anti-Influenza Activity of C60 Fullerene Derivatives.	共著 (first author)	平成25年6月	PLoS ONE (2013) 8(6): e66337.
Novel polyvalent live vaccine against varicella-zoster and mumps virus infections.	共著	平成25年10月	Microbiology and Immunology (2013) 57 704-714
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
	特になし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 微生物学	職名 助教	氏名 出崎 敬子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A recombinant carboxy-terminal domain of alpha-toxin protects mice against <i>Clostridium perfringens</i> .	共著	平成25年5月	Microbiol. Immunol. 57, 340-345
(論文) Intracellular trafficking of <i>Clostridium perfringens</i> iota-toxin b.	共著	平成24年7月	Infect. Immun. 80(10), 3410-3416
(論文) <i>Clostridium perfringens</i> iota-toxin b induces rapid cell necrosis.	共著	平成23年11月	Infect. Immun. 79(11), 4353-4360
(論文) <i>Clostridium perfringens</i> TpeL glycosylates the Rac and Ras Subfamily proteins.	共著	平成23年2月	Infect. Immun. 79(2), 905-910
(論文) <i>Clostridium perfringens</i> iota-toxin: structure and function.	共著	平成21年4月	Toxins, 1, 208-228

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 宮高透喜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 OSCE模擬患者に関するフォーラム	2008年8月	OSCEにおける標準模擬患者養成の全国レベルでの統一を図るためのフォーラムにて研修（東京）	
薬学共用試験OSCE標準模擬患者（SP）養成講習会	2008年9月	OSCE開始に際して標準模擬患者の養成に関するワークショップ形式の講習会にて研修（神戸）	
模擬患者協力型演習に関するフォーラム	2008年12月	OSCEにおける標準模擬患者養成の全国レベルでの統一を図るためのフォーラムにて研修（神戸）	
SPスキルアップのためのワークショップ	2012年5月	標準模擬患者の能力を高め、より実践に近い形にするための養成講習会に参加（東京）	
薬剤師が行う患者アセスメントは次のステージへ～薬局での簡易血液検査と患者教育～ワークショップ	2012年7月	実務実習学生が習得すべきバイタルサインと患者への指導方法養成講習に参加（東京）	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008-2013年 2009-2013年	衛生化学実習テキスト作成 実践栄養学講義テキスト作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2007-2013年 2007-2013年 2007-2013年 2007-2013年	OSCE実施委員 OSCE・SP養成委員 施設委員 安全対策委員	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Dose-response relationship between arsenic exposure and the serum enzymes for liver function tests in the individuals exposed to arsenic: a cross sectional study in Bangladesh.	共著	2011年7月	Environ Health. 2011 Jul 8;10:64
Alternative splicing variants of human arsenic (+3 oxidation state) methyltransferase.	共著	2011年11月	Biochem Biophys Res Commun. 2011 Oct 8; 2011 Nov 11;415(1):48-53
Elevated levels of plasma Big endothelin-1 and its relation to hypertension and skin lesions in individuals exposed to arsenic.	共著	2012年3月	Toxicol Appl Pharmacol. 2012 Mar 1;259(2):187-94
Increases in oxidized low-density lipoprotein and other inflammatory and adhesion molecules with a concomitant decrease in high-density lipoprotein in the individuals exposed to arsenic in Bangladesh.	共著	2013年9月	Toxicological Science. 2013 Sep;135(1):17-25
An integrative study of the genetic, social and environmental determinants of chronic kidney disease characterized by tubulointerstitial damages in the North Central Region of Sri Lanka	共著	2013年12月	J. Occup. Health Accepted 4 Oct, 2013 in press
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～	日本プロポリス協議会学術研究委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 藤代 瞳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年5月27-28日	総合薬学演習3：薬剤師国家試験対策前期
2 作成した教科書、教材、参考書			衛生薬学実習（3年後期）実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年3月1日～	東京理科大学客員研究員、総合研究機構（バイオオルガノメタリクス研究部門）
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(論文) High sensitivity of RBL-2H3 cells to cadmium and manganese: an implication of the role of ZIP8.		共著	平成21年7月
(論文) Roles of ZIP8, ZIP14, and DMT1 in transport of cadmium and manganese in mouse kidney proximal tubule cells.		共著	平成22年2月
(論文) Suppression of ZIP8 expression is a common feature of cadmium-resistant and manganese-resistant RBL-2H3 cells.		共著	平成23年1月
(論文) Down-regulation of S100A9 and S100A10 in manganese-resistant RBL-2H3 cells.		共著	平成23年8月
(論文) Interleukin-6 enhances manganese accumulation in SH-SY5Y cells: Implications of the up-regulation of ZIP14 and the down-regulation of ZnT10.		共著	平成24年
(論文) Metalloids in the environment: A review of the toxicology of arsenic, cadmium, lead, mercury, manganese, nickel, and zinc.		共著	平成24年
III 学会等および社会における主な活動			
2010年6月25日	日本薬学会 物理系薬学部会・第20回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 実行委員		
2011年4月27日	日本薬学会 環境衛生部会・トピックス執筆（細菌性髄膜炎のワクチン）		
2013年4月～	日本薬学会 環境衛生部会・若手研究者活性化小委員		
2013年10月～	第21回日本免疫毒性学会学術大会 実行委員、事務局長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 公衆衛生学	職名 助教	氏名 川上 隆茂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		H19年～	学生実習：公衆衛生学実習において、レポートを毎日提出させ、その日の内に採点し、返却して報告書のまとめ方などを指導。 講義：6年生薬剤師国家試験対策講義を担当し、適宜、まとめプリントおよび演習問題を配布し、学生の理解向上に努めた。 学部学生への研究指導：問題解決能力を有する学生を育てるため、実験や研究発表を通じて論理的な考え方や表現力を養っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		H21年～	薬剤師国家試験対策講義におけるまとめノートの作製。 公衆衛生学実習における実習書の作製
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		H19年～ H23年～	チューター学生に対する教育指導 高校生に対する薬学実験体験ゼミナール OSCE標準模擬患者講習のタスクフォース
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
Prolonged endoplasmic reticulum stress alters placental morphology and causes low birth weight		共著	平成25年12月
Cadmium modulates adipocyte functions in metallothionein-null mice		共著	平成25年11月
Differential effects of cobalt and mercury on lipid metabolism in the white adipose tissue of high-fat diet-induced obesity mice		共著	平成24年1月
Development of high-fat diet-induced obesity in female metallothionein-null mice		共著	平成22年7月
Cadmium reduces adipocyte size and expression levels of adiponectin and Peg1/Mest in adipose tissue		共著	平成22年1月
III 学会等および社会における主な活動			
2008年～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 公衆衛生学	職名 助教	氏名 門田 佳人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月～	実習の指導および遂行状況を確認し、学生の結果・考察および理解力をチェックした。また、理解力試験を行った。SGDの管理、演習の管理・運営を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年4月～	公衆衛生学実習において、実習書を作成および編纂を行った。専門薬剤師論では、教科書とは別に講義教材を作成し、学生が理解できるように工夫した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年7月3日～4日	「第27回薬剤師のためのワークショップ中国四国in Tokushima」に参加し、(財)日本薬剤師研修センター事業における認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを修了した。
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Cadmium reduces adipocyte size and expression levels of adiponectin and Peg1/Mest in adipose tissue.	共著	平成22年1月	Toxicology Vol.267, No.1-3
(論文) Development of high-fat-diet-induced obesity in female metallothionein-null mice.	共著	平成22年7月	FASEB J, Vol.24, No.7
(論文) Differential effects of cobalt and mercury on lipid metabolism in the white adipose tissue of high-fat diet-induced obesity mice.	共著	平成24年1月	Toxicol Appl Pharmacol Vol.258, No.1
(論文) Obesity and Metallothionein	共著	平成25年4月	Curr Pharm Biotechnol. Open access
(論文) Cadmium modulates adipocyte functions in metallothionein-null mice.	共著	平成25年12月	Toxicol Appl Pharmacol Vol.272, No.3
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～現在	日本薬学会会員		
平成19年4月～現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 松井 敦聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Lipoteichoic acid improves the capability of mast cells in the host defense system against bacteria.	共著	2009	Inflammation Res. 58, 797-807
(論文) Magnolol and honokiol prevent learning and memory impairment and cholinergic deficit in SAMP8 mice.	共著	2009	Brain Res. 1305, 108-117
(論文) Mast cells modulate interleukin-4 production independently of interferon-gamma generation by invariant natural killer T cells through the suppression of Notch signaling.	共著	2011	J. Health Sci. 57, 197-203,
(論文) Phenylbutenoid dimers isolated from Zingiber purpureum exert neurotrophic effects on cultured neurons and enhanced hippocampal neurogenesis in olfactory bulbectomized mice.	共著	2012	Neurosci. Lett. 2012: 513, 72-77
(論文) Generation of mast cells from mouse fetus: analysis of differentiation and functionality, and transcriptome profiling using next generation sequencer.	共著	2013	PLoS One. 2013;8(4):e60837
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 機能形態学	職名 助教	氏名 阿部友美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	1. 2. 3. 平成20年4月～平成26年3月 4. 平成23～25年前期集中 5. 平成23年9月22～24日, 平成24年9月14～15日, 平成25年8月27～28日 6. 平成25年4月～平成26年3月	1病理学実習：ディスカッション顕微鏡にカメラ（Moticam 480N）を装着することにより、学生自身が実習中に染色した病理標本（腎臓）をプラズマディスプレイに映し、大人数でリアルタイムに観察することにより標本観察を指導。 2総合薬学研究1, 2, 3（3, 4, 5, 6年）：研究指導と共に定期的な研究発表セミナーとして病理病態の形態観察等を液晶プロジェクターを用い討議会を行い、定期の論文閲覧や卒論研究口頭発表者の指導。また、インターンシップやチャレンジシップの活発な受け入れと指導。 3. 医療介護福祉実習：医療人としての自覚を高める実習。全国の社会福祉施設や実習後に提示された資料を元に施設一覧表を作成掲示し学生が通い易い地区の医療福祉施設（老人ホーム、デイサービスセンター、身体障害者療護施設、知的障害者施設）でボランティアとして活動させるため指導。 4. 医療環境論, 高齢者医療：テキスト以外に講義の進行にあわせた書き込み式プリントと演習問題を作成し講義。 5. 生物系総合演習：6年生へ機能形態学（卒業演習担当講義）の講義担当。図式の補助プリントを作成しテキストを補い講義。講義後は前もって作成した国試過去問（過去15年分）、模試問題（過去3年分）を1問1答式にし演習し解答解説。放課後の質問や講義日以外の補習監督の対応。 6. OSCE実施委員, SP養成委員：OSCE実施委員としてST6担当。外部のSP協力者へのシナリオ作成や事前指導、試験場や課題準備、学生指導。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年4月7日	病理学実習書（学部3年生対応の実習書。実験概要および手技、記録、結果、質問形式の問題に対する考察の記入式。）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Ultrastructural and histopathological analysis of initial change and myoglobin absorption on proximal tubule injury with glycerol-induced rhabdomyolysis in rats.	共著	平成21年12月	Journal of Hard Tissue biology 18/3, 141-147, 2009 Dec.
Localization and characterization of lymphatic vessels in oral and cervical squamous cell carcinoma	共著	平成23年9月	Exp Ther Med. 2(5), 793-797,
Molecular screening of anti-quorum sensing capability of salvadora persica on enterococcus faecalis.	共著	平成23年10月	J Hard Tis Biol. 20(2), 115-124,

Aneurysmal bone cyst of the patella: a case report.	共著	平成23年10月	J Hard Tis Biol. 20(2), 161-164,
Clostridium perfringens alpha-toxin induces the release of IL-8 through a dual pathway via TrkA in A549 cells.	共著	平成24年12月	J. Biochim Biophys Acta. 1822(10):1581-9,
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 医療薬学講座	職名 助教	氏名 末永 みどり
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Vitamin D2 interacts with human PrPc (90-231) and breaks PrPc oligomerization in vitro	共著	平成25年8月	PRION Vol.7 No.4
(論文) A-beta40 modification with physicochemical factors and its application to Alzheimer's disease diagnosis	共著	平成24年11月	Journal of Amino Acids Article ID 206520
(論文) Chemical and genetic diversity of Ligularia virgaurea collected in northern Sichuan and adjacent areas of China. Isolation of 13 new compounds	共著	平成24年10月	Tetrahedron Vol.68
(論文) Effects of 8-Residue beta sheet breaker peptides on aged Abeta40-induced memory impairment and Abeta expression in Rat brain and serum following intra-amygdaloid injection.	共著	平成22年11月	Current Alzheimer Research Vol.7 No.7
Reversal of temperature-induced conformational changes in A 40 by -sheet breakers peptides 16-23 and 17-24 but not by 15-22 or 18-25.	共著	平成21年10月	British Journal of Pharmacology Vol.158
III 学会等および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生薬研究所	職名 助教	氏名 兼目裕充
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 早期体験学習 基礎ゼミナールA 化学実習 生物学実習 生薬研究所特別実習B 生薬研究所特別実習C 処方せん解析学 総合薬学研究1 総合薬学研究2 総合薬学研究3	平成19年11月 平成20年4月～ 平成19年11月 平成19年11月～ 平成19年11月～平成22年3月 平成19年11月～平成22年3月 平成22年4月～ 平成22年4月～ 平成22年4月～ 平成22年4月～	第1学年早期体験学習指導 第1学年基礎ゼミナールA指導 第1学年化学実習講義・指導 第1学年生物学実習講義・指導（教材作製含む） 卒業論文研究指導（間接指導2名） 卒業論文研究指導（間接指導2名） 第5学年処方せん解析学講義（自律神経用薬ほか） 卒業論文研究指導（直接指導9名、間接指導12名） 卒業論文研究指導（直接指導9名、間接指導12名） 卒業論文研究指導（直接指導9名、間接指導12名）	
2 作成した教科書、教材、参考書 生物学実習	平成19年11月～	実習実験ビデオ教材その他の作製	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 卒業論文直接指導学生の受賞 卒業論文間接指導学生の受賞	平成24年1月 平成24年3月 平成25年3月 平成26年1月 平成25年1月	平成23年度日本薬学会中国四国支部 学生奨励賞 第132年会日本薬学会 学生優秀発表賞 徳島文理大学優秀卒業論文研究賞 平成25年度日本薬学会中国四国支部 学生奨励賞 平成24年度日本薬学会中国四国支部 学生発表奨励賞	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Transannular Proton Transfer in the Cyclization of Geranylgeranyl Diphosphate to Fusicoccadiene, a Biosynthetic Intermediate of Fusicoccins	共著	平成21年5月	Organic letters vol.11 No.14 p3044-3047
(論文) Cloning and characterization of a novel gene that encodes (S)- β -bisabolene synthase from ginger, <i>Zingiber officinale</i> .	共著	平成22年1月	Planta vol.232 p121-130
(論文) Heterologously expressed β -hydroxyl fatty acids from a metagenomic library of a marine sponge	共著	平成24年10月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters vol.22 p7322-732

(論文) Activity-guided isolation of cytotoxic bis-bibenzyl constituents from <i>Dumortiera hirsuta</i>	共著	平成25年2月	Journal of Oleo Science, vol. 62 No. 2 p105-108
(論文) Seed Dormancy Breaking Diterpenoids, Including Novel Brassicicenes J and K, from Fungus <i>Alternaria brassicicola</i> , and their Necrotic/Apoptotic Activities in HL-60 Cells	共著	平成26年3月	Natural Product Communications, vol. 9 No. 3
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成20年7月27日	平成20年度ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (HT20140) 実習指導		
平成22年10月13日	徳島県生物系高校教員研修会 実習・研修指導		
平成24年9月22～23日	高大連携実験教室 (高知県高知小津高校) 薬学実験体験ゼミ指導		
平成24年8月～現在	地域共同研究 株式会社アクト (徳島県吉野川市) 「淡水アオコ防除の有効成分」		
平成25年8月3日～10月27日	高大連携実験教室 (愛媛県済美高校) 薬学実験体験ゼミ指導 指導生徒の受賞: 第52回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 高校生オープン学会 優秀口頭発表賞受賞 2013年10月27日		
～現在	1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry誌 レビューワー 2) Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters誌 レビューワー 3) Journal of Oleo Science誌 レビューワー 4) Phytochemistry誌 レビューワー		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 徳島文理大学	講座名 生薬研究所	職名 助教	氏名 八木康行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013. 4. 20, 21 通年 後期	新入生宿泊研修(企画、進行) 国家試験対策講義及び国家試験対策委員としての補習等 OSGE実施委員としてOSGEの対策、生物学実習	
2 作成した教科書、教材、参考書		新入生宿泊研修では、イベント等の企画を行った。 国家試験対策では演習問題等を作成。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013. 8. 20, 21	「SPODフォーラム」参加	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Zierane sesquiterpene lactone, cembrane and fusicoccane diterpenoids, from the Tahitian liverwort Chandonanthus hirtellus.	共著	2010年8月	Phytochemistry. Vol. 71 No. 11-12
(論文) Cytotoxic, radical scavenging and antimicrobial activities of sesquiterpenoids from the Tahitian liverwort Mastigophora diclados (Brid.) Nees (Mastigophoraceae).	共著	2010年10月	J. Nat. Med. Vol. 64 No. 4
(論文) Phenanthrene derivatives from Cymbidium Great Flower Marie Laurencin and their biological activities.	共著	2012年4月	J. Nat. Prod. Vol. 75 No. 4
(論文) Induction of neurite outgrowth in PC12 cells by artemisinin through activation of ERK and p38 MAPK signaling pathways.	共著	2013年1月	Brain Res. Vol. 1490
(論文) Identification and purification of resorcinol, an antioxidant specific to Awa-ban (pickled and anaerobically fermented) tea.	共著	2013年11月	Food Res. Int. Vol. 54 No. 1
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：徳島文理大学	講座名 機器分析センター	職名：助教	氏名：岡本育子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年11～12月 2013年9月21日 2013年12月13日&16日	OSCE SP・評価者講習会、直前対策 後期国試対策分析講義 後期国試対策実務講義
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Chemical and Genetic Study of Ligularia cyathiceps in Yunnan Province of China	共著	2009年10月	Helv. Chim. Acta, 92
(論文) Direct MS Measurement of the Extract of Ligularia virgaurea collected in Yunnan and Sichuan Provinces of China	共著	2010年11月	Phytochem. Anal., 21
(論文) Synthesis and photophysical properties of new SNARF derivatives as dual emission pH sensors	共著	2011年3月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 21 (6)
(論文) Two new norursane-type triterpenoids from Dipsacus chinensis collected in China	共著	2012年3月	Chem. Lett., 41 (4)
(論文) Four new compounds from Ligularia virgaurea: isolation of eremophilane and noreremophilane sesquiterpenoids and the absolute configuration of 2a-hydroxyeremophil-11-en-9-one by CD spectrum and DFT calculation.	共著	2013年9月	Tetrahedron, 69 (39)
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年5月～現在	薬友会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。